

誰にでもできる ロッドクラフト

ブランクそれぞれに個性があるように、ロッド作りもロッドビルダーの数だけノウハウがあるとよく、だからこそカスタムロッドの楽しさがあります。
ここに記すのは、あくまでベーシックな方法です。
今後さらに効率的でより良い仕上げを求める場合は、積極的にプロショップ様や熟練の方におたずねください。
では、楽しく安全にロッドクラフトにチャレンジしてください。

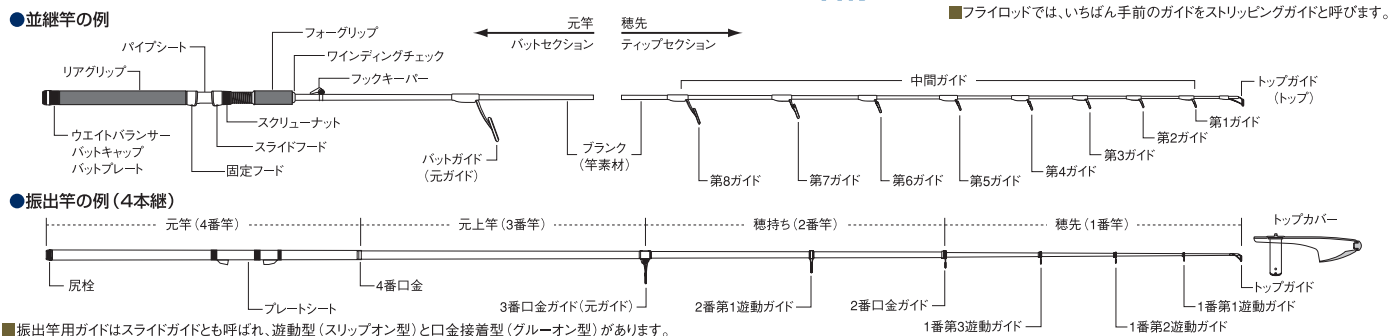
ご注意 たとえ保証期間内であっても、改造したロッドはメーカー様の保証対象外となります。この点を十分ご理解の上、ロッドの改造は、あくまでもご自身の責任で行ってください。

安全に関する注意事項 ・作業に入る前に、この説明書をよくお読みになり、内容を十分に理解してから作業に入ってください。
・安全に作業していただくために、下記の警告表示がされている箇所がありますので、記載事項を必ずお守りください。各警告表示とその意味は、次の通りです。

警告： お守りいただかないと、死亡・重傷を負う可能性、または火災の可能性が想定される内容を示しています。

注意： お守りいただかないと、軽傷または物的損害の発生が想定される内容を示しています。

ロッドコンポーネントの名称



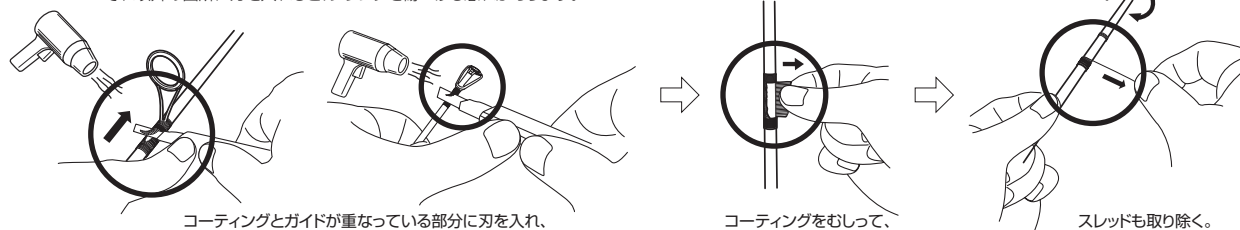
糸巻き式ガイド・トップガイドの取り外し



① ドライヤーで温め、カッターでコーティングとスレッドを取り除きます。

注意： ・カッターの刃で手を切らないよう、十分注意してください。
・刃は、コーティングとガイドが重なっている部分に入れてください。
それ以外の箇所に刃を入れると、ブランクを傷つける恐れがあります。

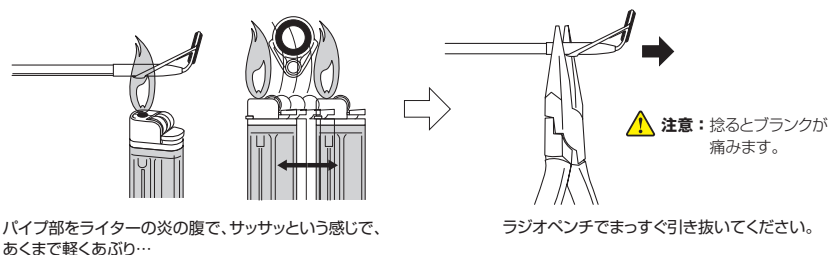
警告： ・ツールを使用する前に、付属の取扱説明書をよく読んでから使用してください。
・カッター、薬品、ドライヤーやライターの熱などの取り扱いに注意してください。



② トップガイドはライターで軽くあぶって外します。

警告： ・あぶった際、トップガイドが飛び出ることがありますので、周囲の安全に注意してください。
・火気の取扱いには十分注意してください。

注意： ・あぶり過ぎるとブランクが焼けてしまうので、注意してください。
・本来ブランクの保護を考えれば、直火であぶることは避けるべきですが、実際にはドライヤーレベルの熱ではなかなかトップガイドは外れません。どうしても直火使用を避けたい場合は、その他の方法について、プロショップ様や熟練の方にご相談ください。

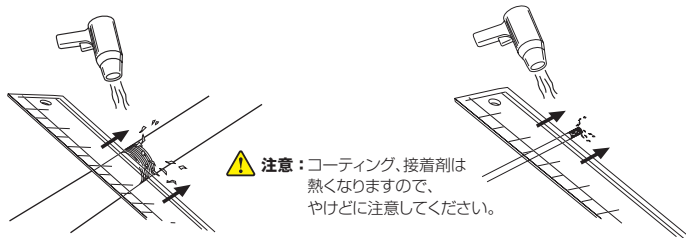


contents

●ガイドの取り外し	2・3
●プレートシートの取り外し	3
●グリップ部の取り外し	3・4
●ブランクの塗装	4・5
●ブランクのスプライン出し	5
●グリップ素材の形状加工	5・6
●グリップ部の取り付け	6~8
●グリップの接着	6
●バットアクセサリーの接着	6・7
●パイプシートの接着	8
●フォーグリップ、メタルパーツの接着	8

●ガイドの張り止め	8・9
●ガイドの定割り	8
●トップガイドの接着	8・9
●ブランクの曲がりテスト	9
●装飾テープを使ったキャストテスト	9
●ガイドの巻き方	9・10
●二色巻き	11
●飾り巻き	12~15
●ガイドのコーティング	16・17
●プレートシートの取り付け	17
●口金ガイドの取り付け	17
ロッドコンポーネントのメンテナンス	18・19

③ ドライヤーで温めながら、定規の角でコーティング、接着剤を取り除きます。



注意：コーティング、接着剤は熱くなりますので、やけどに注意してください。

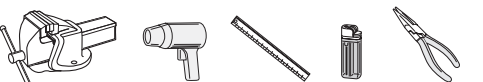
口金ガイドの取り外し

警告： ツールを使用する前に、付属の取扱説明書をよく読んでから使用してください。

① まず、外したい箇所より穂先側にあるトップガイドと遊動ガイドをすべて外し、そのブランクを抜き取ります。
※トップガイドの外し方は、前ページと同じです。

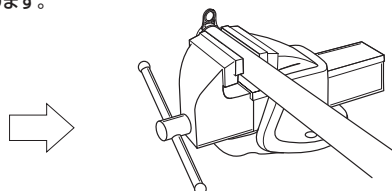
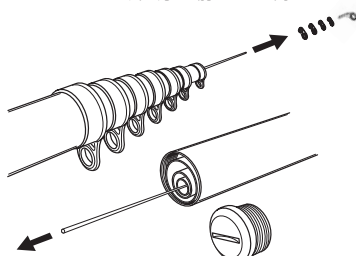
② あらかじめ、万力をちょうどいい広さにしておきます。

ツール

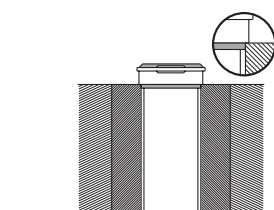


台に固定された万力 ドライヤー プラスチック定規 ライター ラジオペンチ

マスキングテープ

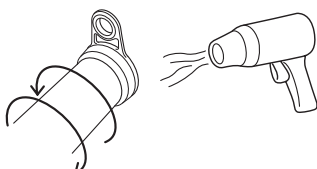


注意： 竿を直接万力で挟まないように注意してください。また、万力に触れそうな部分には、マスキングテープを巻くなどして竿を保護してください。



注意： 万力の縁に引っ掛ける箇所は、金属フレームの下端です、樹脂部に引っ掛けると、ガイドの変形・破損の恐れがあります。

③ ドライヤーで口金ガイドを熱します。この時、竿を回しながらガイド全体を十分に熱します。



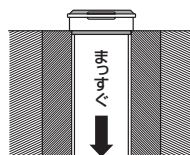
注意： 直接火であぶらないでください。竿が焼けたり、ガイドが変形します。

④ すばやく竿を万力にセットし、まっすぐに引き抜きます。

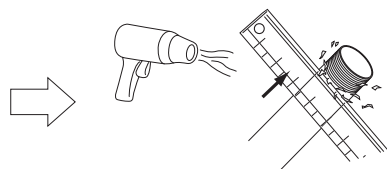


竿は仕舞い込んでおく

注意： 竿は必ずまっすぐに引き抜いてください。斜めに引き抜くと、竿を痛めたり、破損する恐れがあります。



⑤ 口金部に残った接着剤は、ドライヤーで温めながら定規の角を使って取り除きます。

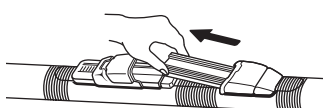


一度で外れない場合は、③④の手順を繰り返してください。この方法で外れない場合は、お求めの小売店様、竿メーカー様にお問合せください。

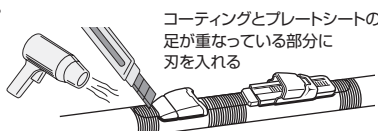
プレートシートの取り外し

警告： ツールを使用する前に、付属の取扱説明書をよく読んでから使用してください。

① NSシートの場合は、図のようにプラスチックカバーを持ち上げてロックを外し、矢印方向に引いて外します。



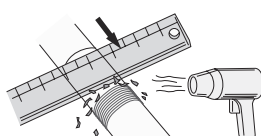
② ドライヤーでコーティングを温め、カッターでコーティングとスレッドを取り除きます。



コーティングとプレートシートの足が重なっている部分に刃を入れる

注意： カッターの刃で手を切らないように注意してください。カッターの刃を入れる際は、ブランクをキズつけないように、気をつけてください。

③ 残ったコーティングも、ドライヤーで温めながら定規の角を使って取り除きます。



ツール



ドライヤー プラスチック定規

カッター マスキングテープ

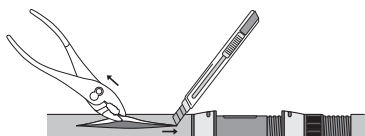
グリップ部の取り外し

警告： ツールを使用する前に、付属の取扱説明書をよく読んでから使用してください。



注意： 手を保護するために、手袋を着用してください。

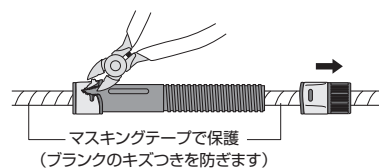
① カッターでリアグリップに切れ目を入れ、ペンチで挟んでむしり取ってゆきます。(フォアグリップも同様)



注意： 深く切り過ぎて、ブランクをキズつけないように気をつけてください。

切れ目は複数入れると作業がラクです。

② スライドフードを外し、固定フードをニッパーで切断して取り除きます。



マスキングテープで保護 (ブランクのキズつきを防ぎます)

通販
できます

ハンド・ロッドラッパー
RRM

RRMの詳細は
P.9を
御覧ください。



RRM 通販お申し込み方法

※お手数ですがRRMの価格は
Tel (054) 285-2251までお問い合わせください。

①切手の場合…封書に以下を明記のうえ、商品代金分(消費税込)の切手を同封。
住所/氏名/電話番号/品番と個数(例:RRM 1個)

②現金書留の場合…封書に以下を明記のうえ、商品代金(消費税込)を同封。
住所/氏名/電話番号/品番と個数(例:RRM 1個)

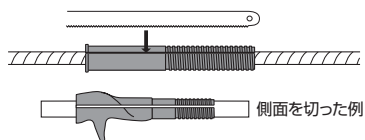
送料と発送…①②共通

佐川急便によるお客様着払いとなりますので
ご了承ください。

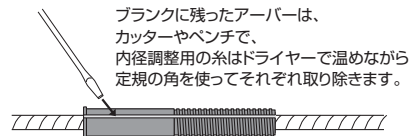
お申し込み先…①②共通

〒422-8564 静岡県静岡市駿河区南町19-3
富士工業株式会社 営業課 営業係 Tel (054)-285-2251

③ 鉄ノコで、パイプシートの側面数ヶ所に切れ目を入れます。



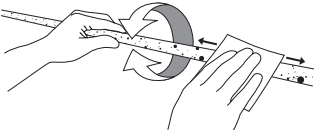
④ 切れ目にマイナスドライバーを差し込んでゴジ開けるか、ペンチで挟んで取り除きます。



ブランクに残ったアーバーは、カッターやペンチで、内径調整用の糸はドライヤーで温めながら定規の角を使ってそれぞれ取り除きます。

⑤ 仕上げにサンドペーパーでカスを取り除きます。

もう一方の手でブランクを回しながら行う



ブランクの塗装

～引き抜き式～

⚠ 警告： ツールを使用する前に、付属の取扱説明書をよく読んでから使用してください。

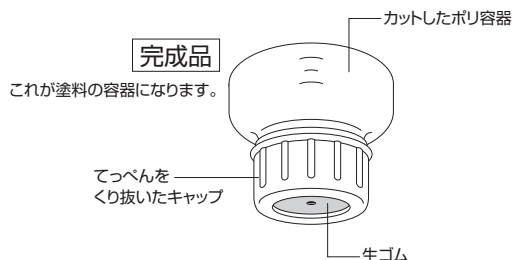
ブランク塗装の技が熟練を要することは言うまでもありませんが、ここに紹介するのは、あるプロショップ様が用いている、ツールなども比較的手軽な方法です。また、これ以外にもエアブラシを使ったり、ロッドビルダーによって色々な方法が行われています。



① 塗料の密着性を良くするため、ブランクを研磨布で研ぎます。



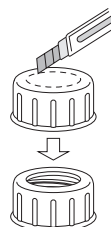
② ポリ容器と生ゴムシートを加工します。



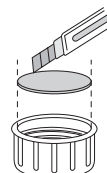
ポリ容器の本体をカット。



キャップのてっぺんを、なるべくまん丸にカット。

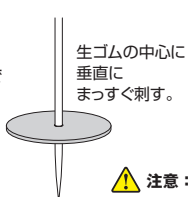
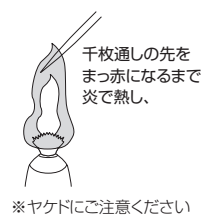


真円の生ゴムが手に入らない場合は、キャップの内径に合うようにまん丸にカット。



※まん丸の生ゴムは、市販品も有ります。

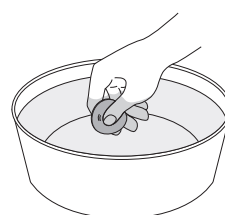
生ゴムの中心に穴を開ける。



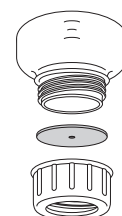
※穴の大きさの目安は、穂先径の6割くらい。これにより、千枚通しを使うか、または求める穴の大きさに合う縫い針を使うかを決めます。

⚠ 注意： 縫い針の際は、ヤケドをしないよう革手袋、ペンチを使用してください。

※穴が空いたら生ゴムをシンナーに漬け、穴の周囲に残ったカスや表面のドロドロを指でこすって洗います。シンナーに漬けると生ゴムはいったん大きくなりますが、やがて元の大きさに戻ります。



出来た3つを組み合わせれば、塗料容器の完成です。

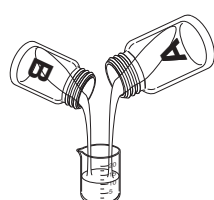


③ 塗料を作ります。

塗料を計量カップに入れ、よくかき混ぜる。

※混合比、可使時間、乾燥時間など、必ず取扱説明書の指定にしたがってください。

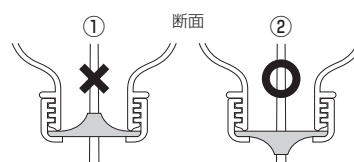
混合直後から硬化がどんどん進む二液性エポキシコーティング剤などと違い、二液性ウレタン塗料は、製品によって、混合後ある程度の時間を置いてから塗ったほうが、仕上がりが良くなる場合がありますので、1回の使用料なども含め、お求めのプロショップ様、あるいは塗料の製造メーカー様におたずねください。



④ ブランクを万力にセットします。

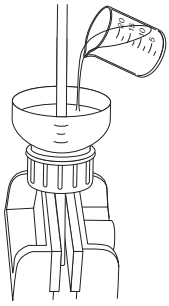
穂先を上にして、ブランクを万力にまっすぐ立て、穂先から通した塗料の容器をいちばん下まで降ろします。

この時、キャップ内の生ゴムの中心は、上に引っ張られて①のような状態となりますが、生ゴムとブランクの間に塗料がうまく入り込むように、容器を少し持ち上げて②のように調整します。



⑤ いよいよ塗ります。

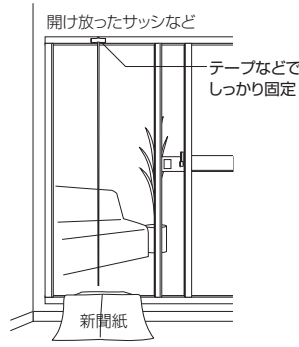
容器に塗料を移し、



※使った生ゴムは1度で捨てず、何度か使ったほうが馴染む場合があります。



しゃがんだ姿勢から、立ち上がり、容器をひと息に持ち上げ、そのまま容器を穂先から外します。



塗装後、液ダレが起こりやすいのは穂先部です。その処置として、塗装に触れないスペースに穂先を下にして吊り下げ、乾燥を待ちます。

- クリア系塗料は、ブランクの地肌が見え、仕上がりがキレイです。
- 白色をキレイに仕上げるのは難度が高く、馴れるまでは乾いては塗り、乾いては塗りを数回行わなければならないことが多いです。失敗したらシンナーで塗料を拭き取って再チャレンジ!
- 完成色を赤や黄にする場合は、下地に白を塗らないと、狙いの色が出にくい。
- 使用した容器は、残った塗料を乾燥させてから取り除きます。きれいに塗料がはがれ、簡単にきれいにすることができます。
- 使った生ゴムは1度で捨てず、何度か使ううちに穴とブランクとの馴染みが良くなる場合があります。その場合、使用後シンナーに漬け、塗料をキレイに拭き取って保管します。

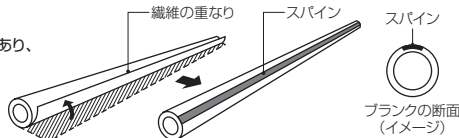
ロッドコンポーネントを取り付ける前に……

ブランクのスパイン出し



ブランクの背骨

ブランクには、肉厚で最も反発力強い「スパイン」と呼ばれる部分があり、ロッドコンポーネントは、このスパインを基準として取り付けます。



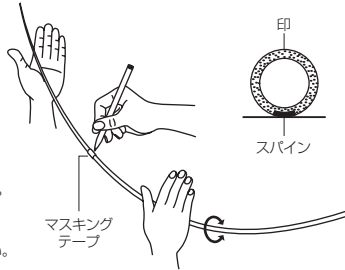
※実際のスパインは真直ぐではなく、スパイラル状に入っているものや、また複数のスパインが見られるものがほとんどです。一般的には一番強いスパインの向きを基準にガイドをセッティングします。

スパインの見つけ方

① バット部のスパインを重視した見つけ方

竿尻を床や机の上に置き、竿先を手の上に置きます。次にもう一方の手で平でブランクを押しながらゆっくり回すと、クルッと反発するところがスパインです。この時スパインは真下にありますが、その正反対にあたる真上に仮りの印を付けます。

注意：・力を加えずにブランクを折らないよう注意してください。



② ティップ部のスパインを重視した見つけ方

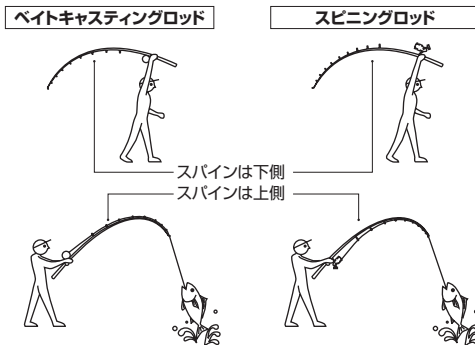
右手で竿先を持ち、左手で穂先部を支えるようにします。右手でブランクをゆっくり回転させると、ブランクが安定して止まるところと、安定しないで回転しようとするところがあります。これはスパインがあるためです。このとき竿尻は、安定する状態で最も低く、不安定な状態で最も高い位置になります。これは、安定する状態では竿の側面に、不安定な状態では竿の上面にそれぞれスパインがあることを示しています。



注意：・グリップ、リールシートが装着されたワンピースロッドなど、竿尻に重量がある場合、寝かせた状態からいきなり穂先を持ち上げると、ブランクが折れることがありますので注意してください。

●スパインとロッドコンポーネントの位置関係

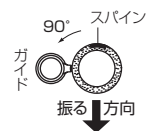
一般的には、ベイトキャストロッドの場合はスパイン側に、スピニングロッドの場合はスパインの反対側に、それぞれガイドを取り付けます。



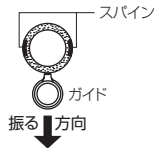
こうすればキャスト時のスパインはロッドの下側になり、ロッドがネジレずまっすぐ振ることができ、しかも魚を釣り上げる時のスパインはロッドの上側になるので、ロッドパワーが最大限に生かされる、という考えです。

しかし、このような考え方もあります。

a) 軟らかいベイトキャストロッドの場合、スパインの90°横にガイドを取り付けるセッティングが有ります。これは、キャスト時に、スパインがブランクの上になる様に、キャストの方向性を安定させる考え方です。



b) フライロッドや軟らかいスピニングロッドの場合も、スパインの90°横にガイドを取り付けるセッティングが有ります。これは、スパインが複数見られる場合、曲がりやすい部分にガイドを取り付け、両サイドを硬くする事でブレを抑えるという考え方です。



上記の様に、基本は、「ベイトは背に、スピニングは腹に。」ですが、ご使用になるブランクの特性、使用目的に合わせてスパインの位置を基準にガイドのセッティングを行って下さい。

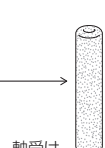
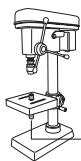
警告：ここで紹介する手順は、ボール盤という、あまり身近にない電動工具を用いた例です。また、ボール盤に取り付ける軸や軸受けが不適切な場合、回転中に軸がブレて非常に危険です。不慣れな方は、作業の前に必ずプロショップ様にご相談ください。※長いグリップを加工する場合は、特にブレやすいので、十分ご注意ください。

グリップ素材の形状加工 ～ボール盤を使った場合～

ツール



警告：取扱説明書をよく読んでから使用してください。



軸受け
これはコルクグリップを改造した例。ここに長ねじを通してブレを防ぐ。ボール盤の受け台の穴にキツめのもの。

長ねじ(軸)
※ナット、ワッシャー付き。グリップ素材の内径に合った太さのもの。



マスキングテープ

グリップ素材と長ねじにスキ間がある場合



スパナなど

※長ねじのナットを締めるもの。



サンドペーパー

以下の番手が、おおよその目安です。

	EVA	コルク
形を作る	40番	80番
形を整える	80番	180番
表面を磨く	100番	240番

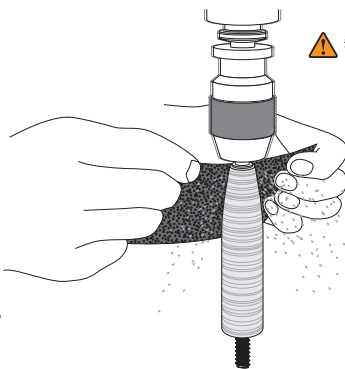
※良質なコルクの場合、240番のあと、さらに320番を使う。



例えば、このフォークグリップを……

……こういう風にしたい場合……

●安全について万全の準備が整ったら、ボール盤の電源をONにして回転させ、グリップ素材にサンドペーパーを当てて削ってゆきます。



⚠ 警告：・軸に巻き込まれる恐れがあるため、手袋を着用しないでください。
また袖など、着衣が巻き込まれないよう十分気をつけてください。
・グリップ加工時は必ず防護メガネをし、目を保護してください。
・作業中に機械がフビはじめたら、危険なため、すぐに電源を切り、機械の回転を止めてください。

・使うサンドペーパーは、はじめは目の粗いもの、そして順に目の細かいものに3～4段階に分けて変えてゆきます。

- ・ほんの少しの加工なら、電動工具を使わず、
カッター&サンドペーパーという手作業が
安全ですが、なかなか上手いきません。
- ・グリップ加工には、旋盤機も多く活用されています。

軸となる長ネジに
グリップ素材を通し、
両側をナットとワッシャーで
しっかり固定したら、
ボール盤にセットします。

⚠ 注意：
・ナットを締め過ぎて
グリップを破損
させないよう
気をつけてください。

注意：
・ナットのゆるみ防止のため、
ポール盤のチャックと
ナットの間を空けない。

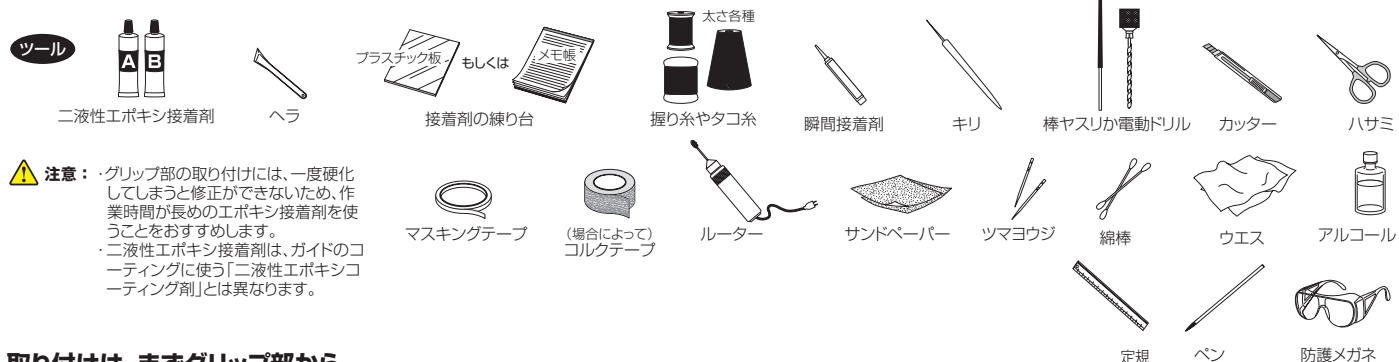
必要!

軸受け

これはコルクグリップを改造した例。
ここに軸をしっかりと通し、ブレを防ぐ。

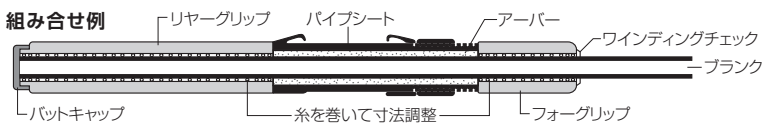
グリップ部の取り付け

警告：・ツールを使用する前に、付属の取扱説明書をよく読んでから使用してください。
・カッターや工具類、薬品などの取扱いに注意してください。



取り付けは、まずグリップ部から

※ガイドから取り付けると、グリップ部のコンポーネントがブラנקに通せなくなります。

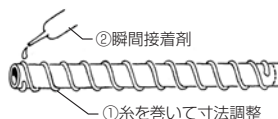


- 取り付け前に、各コンポーネントをプランクに通して仮組みし、プランクへのマーキングと加工・寸法調整のプランを立てましょう。
- 慣れないうちは、ひとつずつを確実に接着し、それが固まったら次へ、という具合に、アセらずに工程を進めましょう。
- 取り付け前に、プランクをアルコールで拭きましょう。
- ハミ出した接着剤は素早く取り除き、その跡をすぐにアルコールで拭きましょう。

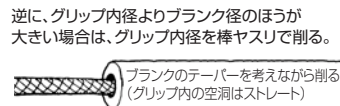
リアグリップの接着

- ① ブランク径とグリップ内径寸法にスキ間があれば、糸を巻いて調整しますが、この場合、ブランクのテーパを考え、スキ間の大小によって糸の太さを変えます。

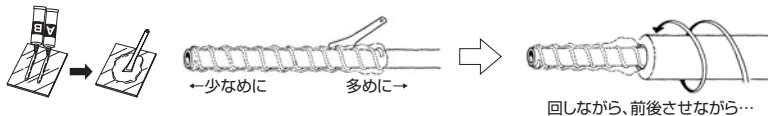
※細い糸を何重にも巻き重ねないように
※接着剤が行き渡るよう、糸は密に巻かず、
少しスキ間を空けて巻く。



- ② グリップを押し込んだ時に、糸がズレて一方に寄ってしまわないように、ところどころを瞬間接着剤で固定します。糸を巻くのは寸法調整のためだけでなく、グリップを押し込んだ時、接着剤が均等に残るようにするためでもあります。

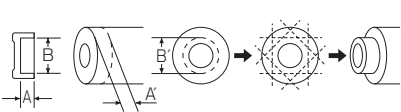


- ③ 二液性エポキシ接着剤を塗り、
グリップを回しながら押し込みます。
はみ出した接着剤はすぐ拭き取り、
はみ出しそうな余分は先に取り除きましょう。



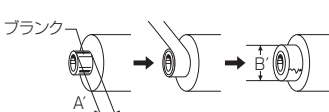
バットキャップの接着

- ### ①-A グリップに接着する場合



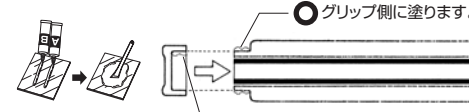
A'B'の印に沿って
グリップの外径をカッターで注意深く切り取ります。

- ①-B ブランクに接着する場合



blank (A'部)にマスキングテープや
colorkテープを巻いて寸法調整します。

- ② 二液性エポキシ接着剤を…



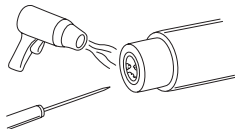
✕ キャップ側に塗ると合わせ目が
しっかり接着できなかったり、
ブランクの内側に入り込んでしま



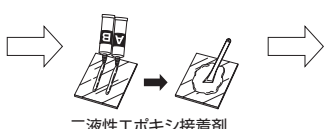
テープで固定。

バットプレートの接着

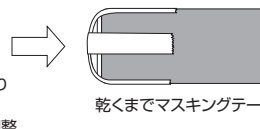
- ① もし、ブランクエンドに
接着カスが残っていれば
ドライヤーで温め、
キリで取り除きます。



- ② サイズの合うバットプレートを
グリップエンドに接着します。



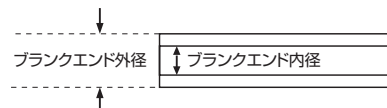
ここがblank内径より
緩い場合、マスキング
テープを巻いて寸法調整。



乾くまでマスキングテープで固定。

ウェイトバランサーの接着

- ※注意 ●ソリッド竿のように中空でない竿には、以下3つのウェイトバランサーは取り付けられません。
●FUJIウェイトバランサーが取り付け可能な竿には、それぞれ以下の条件が必要です。
TWBC・・・ブランクエンド内径4.5mm以上、外径21.0mm以下であること
EWBC・・・ // 内径5.0mm以上、外径21.0mm以下 //
WBC・・・ // 内径4.6mm以上、外径17.0mm以下 //

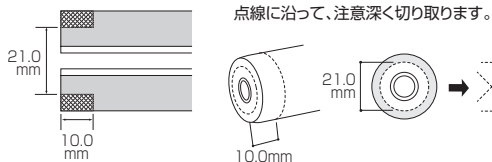


●外嵌め式の場合

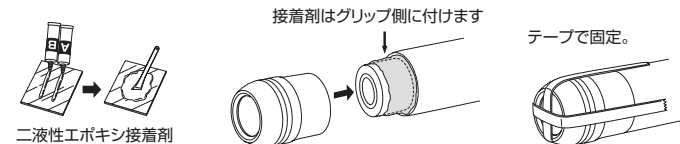


※以下、グリップの加工寸法と作業手順は、TWBC・EWBC共通です。

① カッターを使い、グリップエンドの斜線部分をカットします。



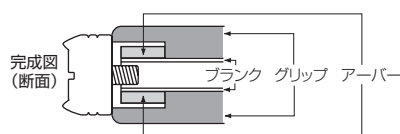
② ウェイトバランサーをグリップに接着します。



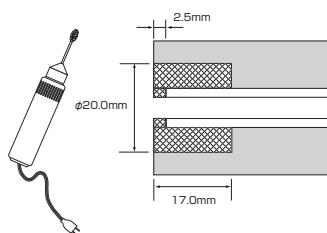
警告： ルーターまたは電動ドリルを使用する際は、必ず防護メガネを着用し、目を保護してください。また、手を巻き込まれる恐れがあるため、決して手袋を着用しないでください。

注意： ルーター、ドリル、カッターの刃で手を切らないように注意してください。

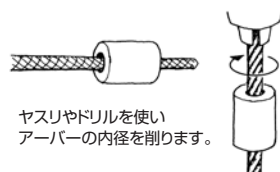
●内嵌め式の場合



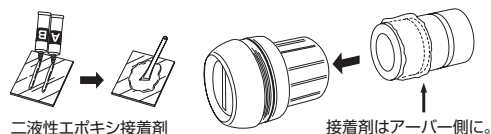
① ルーターで、斜線部分のグリップとブランクを削ります。



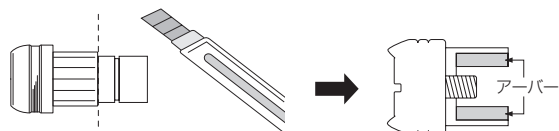
② アーバーの内径を、ブランクエンドの外径に合わせて削ります。アーバーは、FUJIアーバーのCA-17をお奨めします。



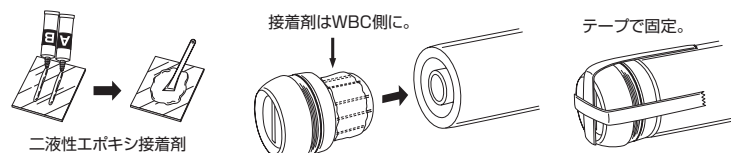
③ アーバーをWBCの内側に接着します。



④ 接着剤が乾いたら、アーバーをWBCの長さに合わせ、カッターなどで切ります。

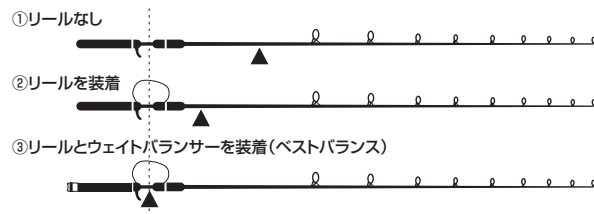
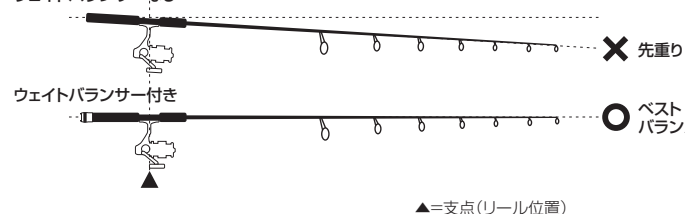


⑤ WBCをグリップに接着します。



ウェイトバランサーとは

ウェイトバランサーなし



たとえ軽いロッドでも、ティップが先重りしていれば、長時間の釣りでは手首や腕が疲れやすくなります。この場合、グリップエンドにウェイトバランサーを取り付けてロッドのバランスを調整すると、ロッドの総重量は重くなりますが、実際の釣りでは逆にロッドが軽く感じ、疲れが少なくなります。つまりウェイトバランサーは、ロッド重さの釣り合いをとるためのコンポーネントです。

③のように、リール位置がロッドの支点になるようにウェイトバランサーを取り付けます。取り付けるウェイトは、リールが軽ければ軽めに、リールが重ければ重めに調整します。FUJIウェイトバランサーなら、このウェイト調整が簡単のため、たいへん便利です。

持ち重り解消 ロッドが軽く感じ、長時間の釣りがラクに!

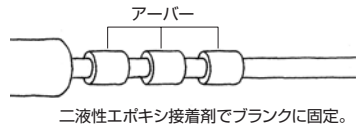
感度アップ ティップが軽く感じることで、よりアタリに敏感に!

操作性アップ バランスアップで、キャストからランディングまで、ロッドの操作の精度もアップ!

パイプシートの接着

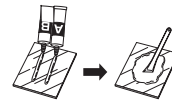
① 寸法調整とアーバーの接着

ブランク径とパイプシート内径とのスキ間が大きい場合は、この例のようにアーバーを使います。マスキングテープやコルクテープを用いても便利ですが、がっちりシートを止めるなら、アーバーがベストです。



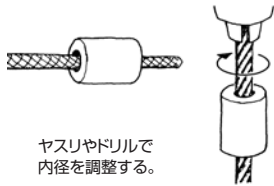
② アーバーの接着剤が乾いたら、パイプシートも接着します。

二液性エポキシ接着剤



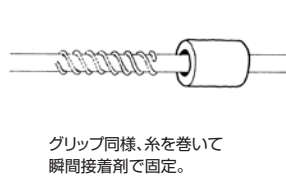
※リール装着面を、設定したガイドの取り付けラインに合わせます。

アーバー内径が小さい時



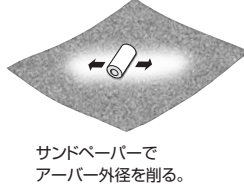
ヤスリやドリルで内径を調整する。

アーバー内径が大きい時

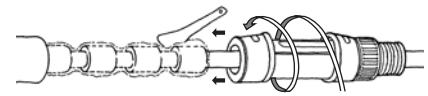


グリップ同様、糸を巻いて瞬間接着剤で固定。

アーバー外径が大きい時



サンドペーパーでアーバー外径を削る。



全体に接着剤が回るように、パイプシートをゆっくりまわしながら、押し込んだり戻したりしながら最後に向きを合わせます。

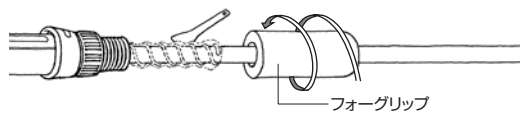
警告：・電動ドリルを使用する際は、必ず防護メガネを着用し、目を保護してください。また、手を巻き込まれる恐れがあるため、決して手袋を着用しないでください。

注意：・ドリルの刃で手を切らないように注意してください。

フォアグリップ、メタルパーツの接着

●フォアグリップ

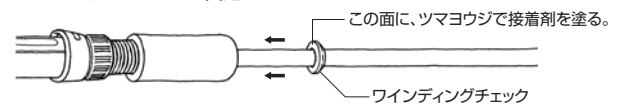
リアグリップと全く同じ要領で、必要に応じて寸法調整したのちに、二液性エポキシ接着剤で取り付けます。



フォアグリップ

●メタルパーツ(この場合は、固定式フォアグリップ用ワインディングチェック)

図の面に二液性エポキシ接着剤を付け、フォアグリップの先端に接着します。固まるまで、マスキングテープで固定します。

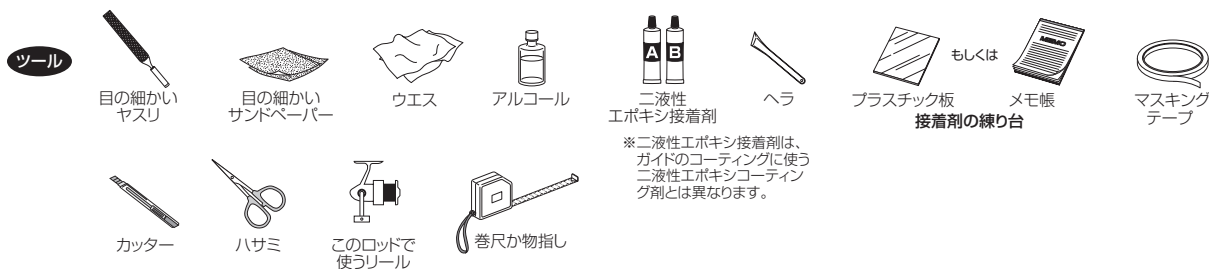


この面に、ツマヨウジで接着剤を塗る。

ワインディングチェック

ガイドの仮り止め

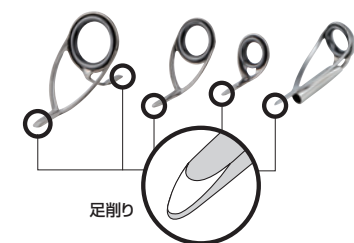
警告： ツールを使用する前に、付属の取扱説明書をよく読んでから使用してください。



ガイドの足削り

ガイド足の先端が斜めに削ってあると、ブランクとガイドの段差が減り、スレッド乗りが良くなります。

●現在のFUJIガイドは、すべて表面処理前に足削り加工を施してありますので、この工程をほぼ省くことができます。



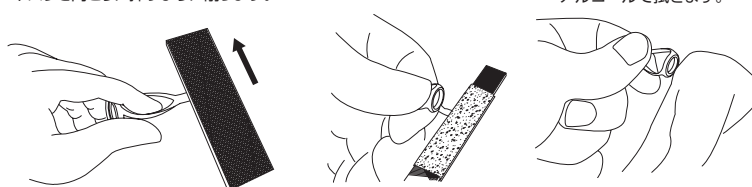
足削り

注意： ヤスリで手を傷つけないように注意してください。

まだ足削りしてない場合、ガイドをしっかりと固定し、足先の斜面に沿って、グッ、グッとヤスリを向こうに押すように削ります。

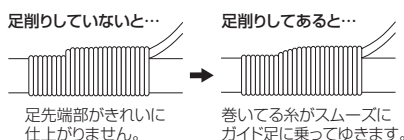
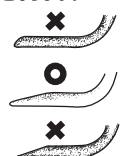
さらにサンドペーパーで仕上げ…(サンドペーパーをヤスリに巻きつけた例)

金属粉をすべて取り除き、アルコールで拭きます。



注意：

・ブランクやスレッドをキズつけないよう、刃物のように鋭く削らないでください。
・削りカスの金属粉は、ガイドからすべて取り除いてください。残っていると、腐食の原因となります。



足削りしていないと…

足削りしてあると…

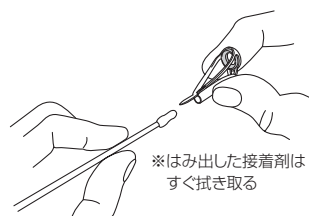
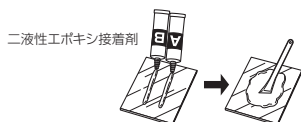
足先端部がきれいに仕上がります。

巻いている糸がスムーズにガイド足に乗ってゆきます。

トップガイドの接着

トップガイドだけは、この段階で接着します。

ブランク径に合ったトップガイドを、向きを間違えないように接着します。



※はみ出した接着剤はすぐ拭き取る



※回しながら差し込み、リールシートに向きを合わせる。

※リングが、設定したガイドの取り付け側になる様に。

あくまで応急用の強度ですが、「FUJIホットグルー」が釣り場であれば、トップガイドの着脱に便利。熱溶解性の固形接着剤で、炎で加熱するだけで溶け、2〜3分で硬化します。

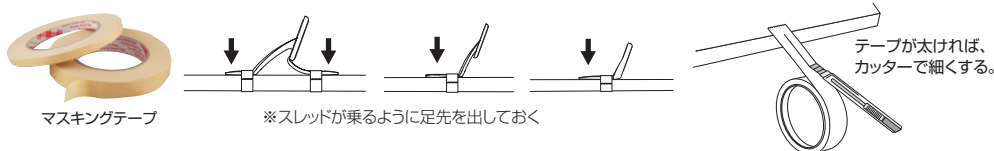
FUJIホットグルー



⚠ 注意：あぶり過ぎるとブランクが焼けてしまうため、注意してください。

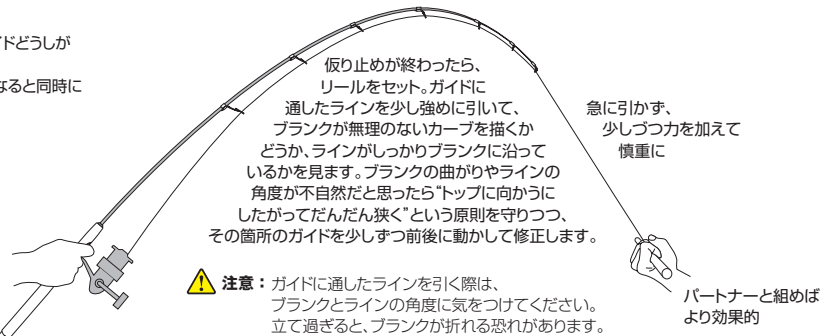
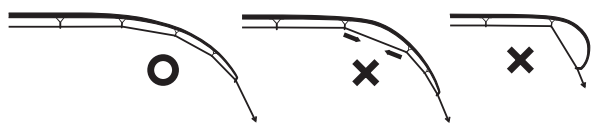
ガイドの回り止め

トップガイドの接着剤が乾いたら、マスキングテープを使って第1ガイドから順にバットガイドまで回り止めしてゆきます。総合カタログまたは当社サイトのカタログコーナー「参考ガイドスベック」をご覧ください。



ブランクの曲がりテスト

スレッドを巻く前に、ブランクとガイドポジションの相性を確かめましょう。ガイド位置は、ブランクのアクションに応じて決める必要があります。配置を誤ると、ガイドどうしが絞られる方向に力が働くと、ブランクが折れやすく、ライン抵抗も大きくなります。ガイドをバランスよく配置すれば、ブランクにかかる応力をうまく分散でき、折れにくくなると同時にガイドを通るライン角度は小さくなり、ライン抵抗も少なくなります。



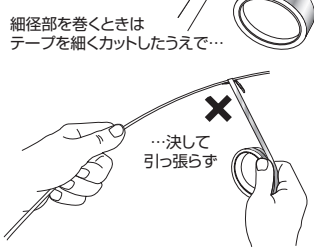
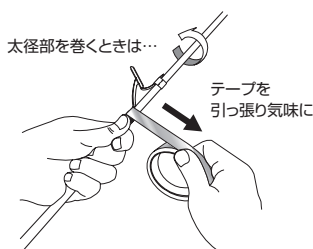
装飾テープを使ったキャストテスト



ポリエステル製装飾テープ

最終的にガイドを取り付けてしまう前に、どうしても飛距離その他が気になる...という場合、ポリエステル製の装飾テープを使って試してみるという方法があります。装飾テープの巻き方のコツは、太いブランク、あるいはブランクの太径部では

多少強めにテープを引っ張り気味に巻くことですが、特に中間より先の細径部では、テープを細くカットしたうえで、決して引っ張らず、ブランクを折らないよう細心の注意を払いながら慎重にきっちり巻くことです。この装飾テープ、しっかり巻けば、テープ止めとは思えない固定力を発揮します。



トップガイドの回り止めにはこれが便利
FUJIホットグルー

●使用法は、このページの最上段をご覧ください。

●ブランク破損と危険を防ぐために！

- ※キャストテストをする前に、必ず上記の曲がりテストをしっかりと行う。
- ※細径部でのテープ巻きは、ゆっくり慎重に。
- ※あくまで回り止めであることを忘れず、テストでは100%の力で投げない。
- ※シングルフットガイド、特に穂先用は足が抜けやすいので注意。
- ※ガイドの移動は少しづつ。いきなり大きく移動させると、ブランクによっては折れる危険性あり。
- ※ガイドを既存スベックよりもリールに近づけて試す場合は、あくまで自己責任で行う。
- ※キャストは安全な場所で、しかも必ず周囲に注意してから投げる。

ガイドの巻き方 ～WRAPPING～

ツール ⚠ 警告： ツールを使用する前に、付属の取扱説明書をよく読んでから使用してください。

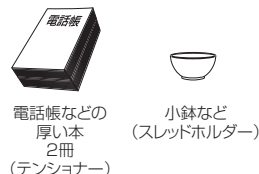


あれば便利！

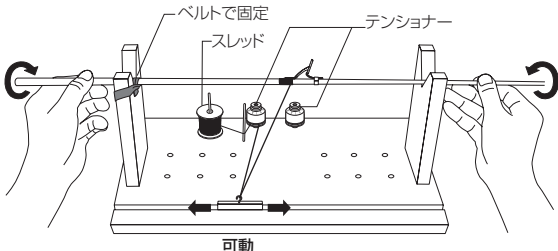


RRM ハンド・ロッドラッパー
●通販の詳細はP.3をご覧ください。
●価格はTel(054)285-2251までお問い合わせください。

なければ...



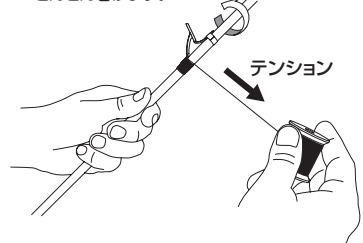
専用のハンド・ロッドラッパーがあれば、均一なテンションでスレッドが巻け、しかも作業途中で手が離せるというメリットがあります。



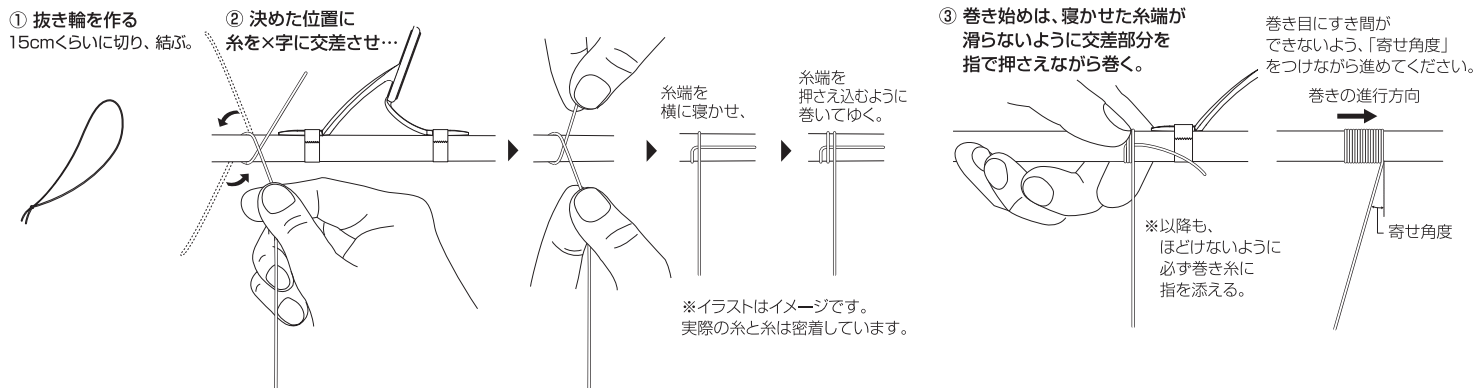
もしハンド・ロッドラッパーがなければ……
電話帳などの厚い本の間にスレッドを通してテンションをかける。



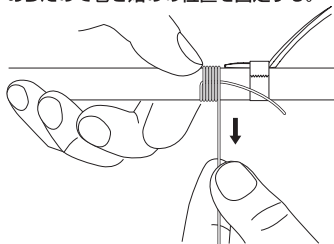
刷れると、何も使わず
どんどん巻けます。



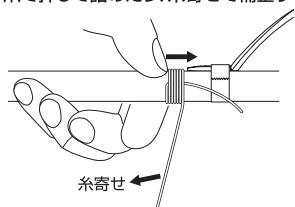
どの方法にも共通する巻き方の基本は、糸にテンションをかけながら手でブランクを回し、糸が重ならないように巻くことです。



④ 5〜6周したら糸を強めに引っ張り、
あらためて巻き始めの位置を固定する。



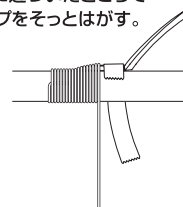
⑤ 糸のスキ間や位置ズレは、
爪で押して詰めたり、糸寄せで補整する。



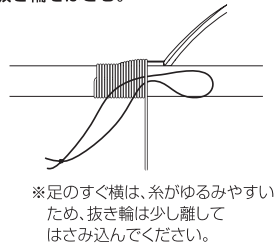
⑥ ハミ出している糸端を切る。



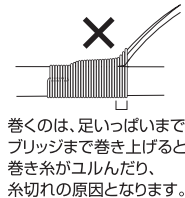
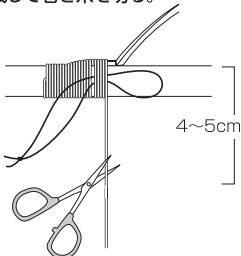
⑦ 巻き糸がガイド足に登り、
さらにテープに近づいたところで
仮止めテープをそっとはがす。



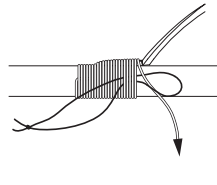
⑧ 残り6〜7周くらいのところで、
抜き輪をはさむ。



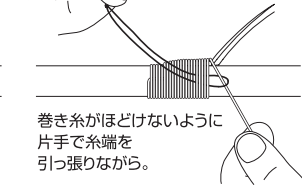
⑨ 足をすべて巻き終わったら、
4〜5cm残して巻き糸を切る。



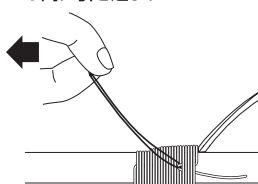
⑩ 巻き糸の端を抜き輪に通す。



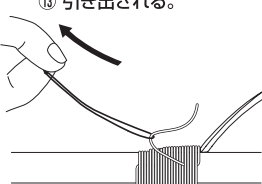
⑪ 抜き輪を引っ張る。



⑫ 糸の端が、巻き糸とブランク
の間に引き込まれ……

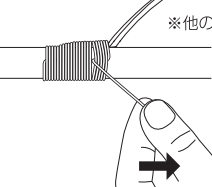


⑬ 引き出される。

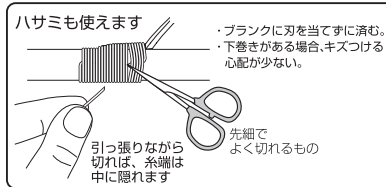
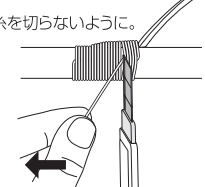


⑭ 引き出された糸を根元から切る。

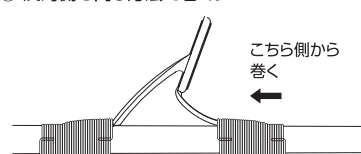
いったん矢印側に引いて
糸と糸の間に
すき間を作り…



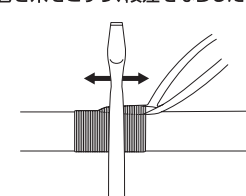
今度は逆に引っ張りながら
刃をタテに押しあてて
糸の根元を切ります。



⑮ 反対側も同じ方法で巻く。

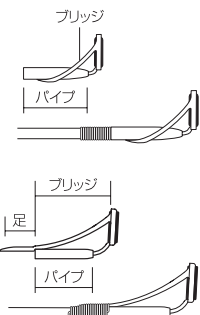


⑯ 金属工具などの滑らかな部分で
巻き糸をこすり、段差をならしたら巻き終わり。

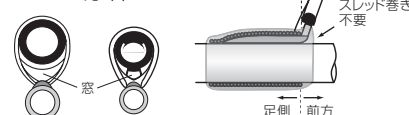


通常のパイプ型トップは、しっ
かり接着してあればスレッド巻
きやコーティングの必要はあ
りませんが、ブランクとの段差
が気になるなら、パイプ直前ま
で巻くか、パイプ部の端だけ
覆いましょう。

足縛り式トップは、パイプ直前
まで巻きます。

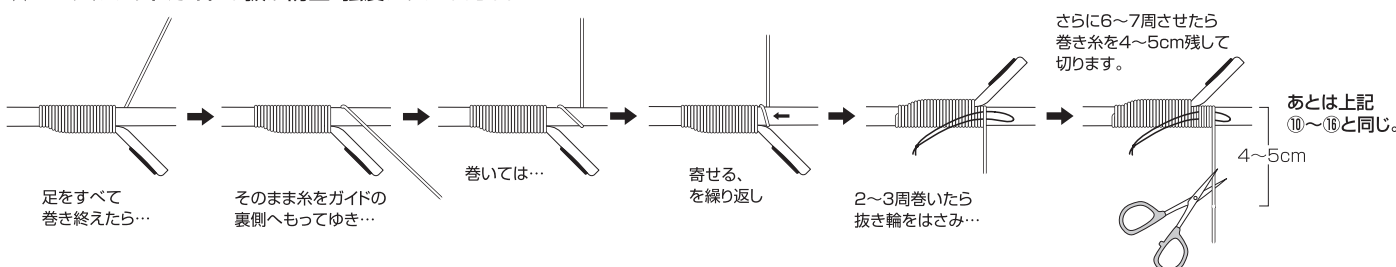


NEW
KTガイド



従来シングルフットガイドの場合、ガイドの裏側にもラッピング&
コーティングをして足抜け防止やフレーム強度アップを図りますが、
新型KTは、足側に塗ったコーティング液が「窓」を通してフレーム前
方にも行き渡ることでそれ以上の効果が得られるため、スレッドを前
方に巻く必要がありません。

★シングルフットガイドの抜け防止・強度アップのために



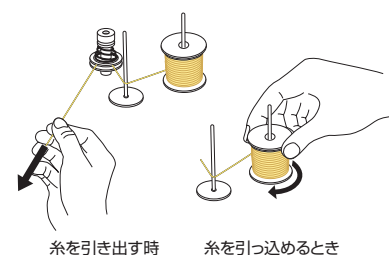
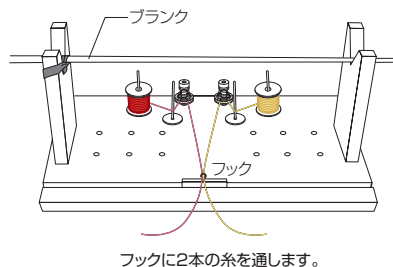
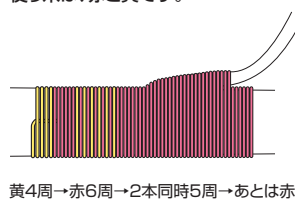
2色の糸で巻く

ハンド・ロッドラッパーを使えば、複数の色の糸でラッピングができます。
ここではその初歩として、2色の糸を使った巻き方を紹介します。

これを例にします。
使う糸は、赤と黄です。

まず、ハンド・ロッドラッパーにこのような準備をします。

作業中の糸の出し入れは…



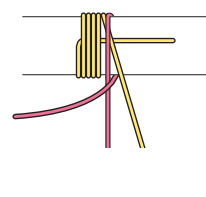
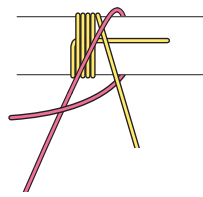
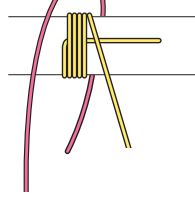
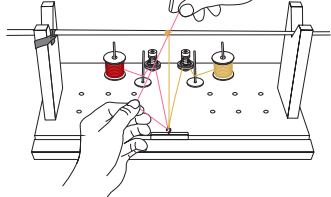
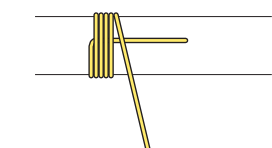
①まず黄を4周巻いたら、
このテンションを保ったまま、

②つぎに赤を6周巻きます。

赤を引き出して、

ブランクに掛け、

赤の本線と黄の本線の間に黄の端糸を通し、

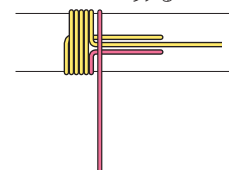
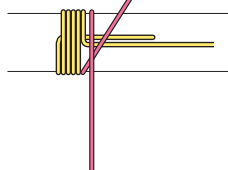
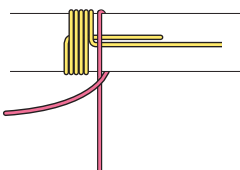


黄の本線を少しゆるめて
横に寝かせ、

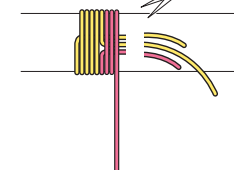
赤の端糸も横に寝かせ、

横になった3本を
赤の本線で押さえるように巻く。

赤が2～3周して他の糸の押さえが効いたら、
赤の本線以外の3本を、
なるべく根本に近い
ところでカット。

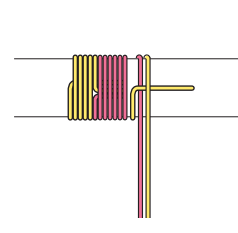
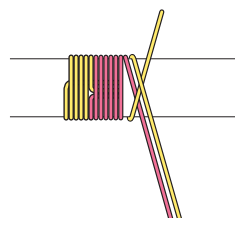
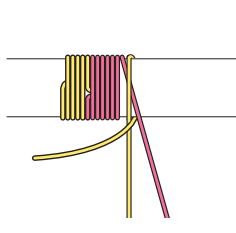
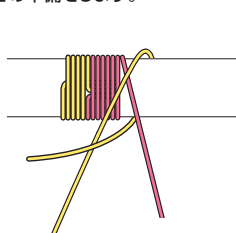
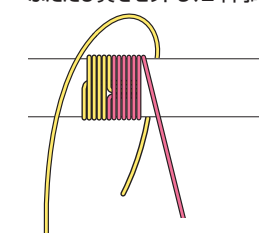


この3本を
重ねず
なるべく近づける



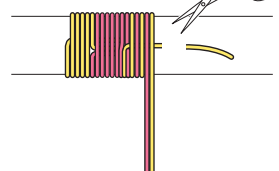
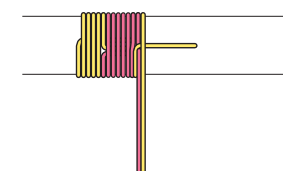
※図では省いてありますが、
糸どうしの交点が
ほどけないことが肝心なので、
指でしっかり押さえるか、
馴れないうちは
テープ止めしましょう。

③赤が6周したら、②のはじめと同じ要領で
ふたたび黄をセットし、2本同時巻きの準備をします。



ここから2本同時に5周巻きます。

押さえが効いたら
黄の端糸をカット

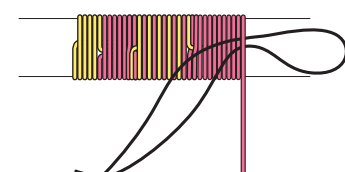
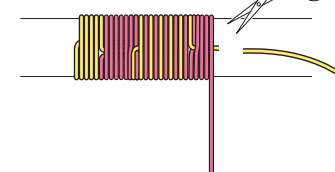
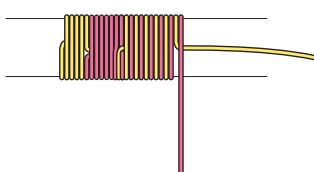
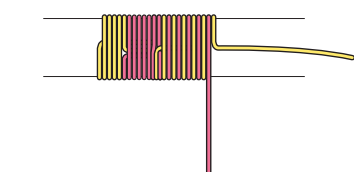


④2本同時巻きが5周したら、
最後に赤に戻ります。
黄の本線を横に寝かせ、

赤を巻いてゆき、

しっかり押さえが効いたら、
黄の本線をカット。

終わりに近づいたら、あとの手順は
前頁と同じです。



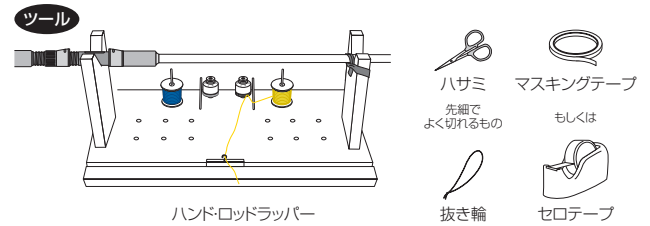
※ガイドへの巻き上げの説明も、ここでは省きます。

飾り巻きは、巻き糸によって作る模様のごとで、主にロッドのバットセクションの装飾に用いられ、カスタムロッドによりいっそうのオリジナリティを加えることができます。

そもそも実用面では、ボートロッドのバット部を船べりとの接触やブツケから保護する、あるいはロッドのジョイント着脱時のスベリ止めという役割もありました。

飾り巻きの技術には、ごく簡単なものから、とても複雑なものまでありますが、ここでは代表的な技法を取り上げ、それぞれの初歩を紹介します。

飾り巻きにおける糸端の処理や仕上げのコーティング方法は、ガイド取り付けの場合と同じですので、糸巻きは P.9～、コーティングは P.16～をそれぞれ参照ください。



基本巻き

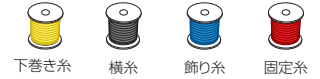
CROSS WRAPS

糸をグリップ側から穂先に向かって等間隔に螺旋状に巻き上げ、ある地点で折り返したら、巻き上げた螺旋に交差させて巻き下げ、その端を固定巻き……

というように、この巻き方が飾り巻きの初歩となります。

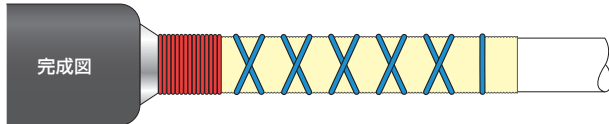
装飾性はありませんが、初心者が飾り巻きのおおまかな仕組みを理解するための練習と捉えてください。

【使う糸】



※模様がシンプルな場合、飾り糸と固定糸は太めのものを使いましょう。

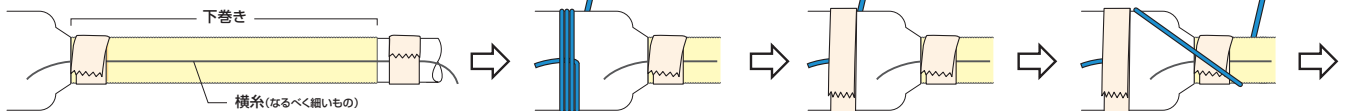
※固定巻きに使う糸があまり細かったり色が淡いと下層の糸が透けることがあります。



はじめに「下巻き」をします。これは、飾り糸を巻きやすくするためのスベリ止めにもなります。糸が重ならないように、スキ間ができないように密に巻きましょう。

つづいて、ロッド径のセンターに「横糸」をまっすぐ張り、両端をテープ止めします。真裏にも同じ要領で横糸を張ります。この横糸が、糸と糸との交点の目印になります。

飾り糸の端をフォアグリップに巻きつけ、テープ止めしたら、螺旋の巻き上げを始めます。



※横糸は、飾り巻きがある程度進んだ時点で抜きます。

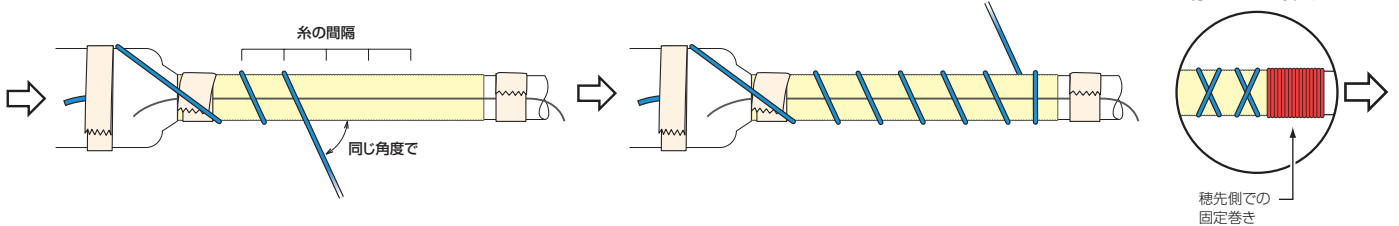
※横糸ではなく、長さを計りながら水性ペンなどで点を打つ人もいます。

※この時、ガイドやリールシートの向きに注意してください。

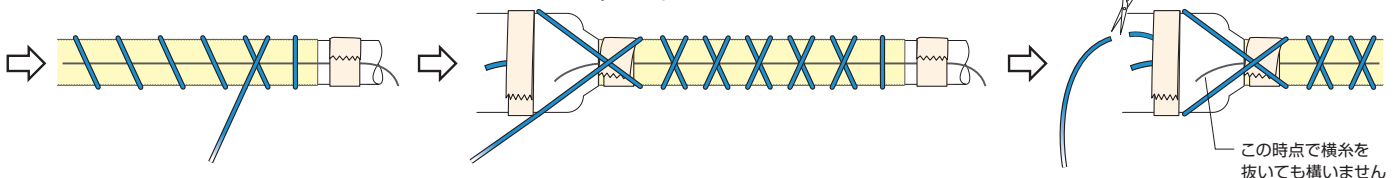
※糸を巻きつけてからテープ止める人、糸端をテープ止めてから巻きつける人、あるいは、巻きつけのみでテープを使わない人……と、それぞれですが、要は、糸のほどけ防止ですので、きれいに巻く必要はありませんが、しっかり巻きましょう。

糸と糸の間隔を決め、等間隔になるように一定の角度で巻き上げてゆき、決めた地点で折り返したら、こんどは逆向きに、糸と糸が横糸の地点で交差するよう、巻き上げ時と同じ角度で巻き下げてゆきます。

穂先側にも「固定巻き」をする場合は、下巻きを過ぎた所まで巻きつけ(テープ止め)を行ってから折り返します。



終わりまできたら、ふたたびフォアグリップに巻きつけ、テープ止めし、糸をカット。



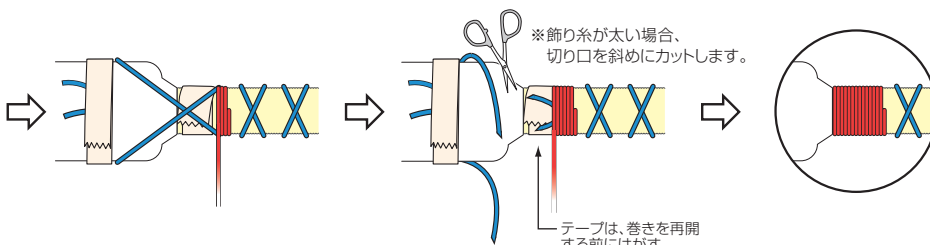
つぎに、飾り糸の端を「固定巻き」します。

数周巻いたところで、最終的に端が出ない長さに飾り糸をカット。

途中で「抜き輪」をはさむことを忘れずに巻き進め、

終わりまで巻いたら、糸端を止めて完了。

穂先側で固定巻きする場合も、手順は同じです。



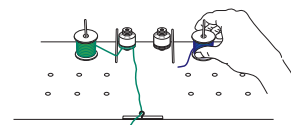
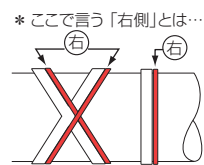
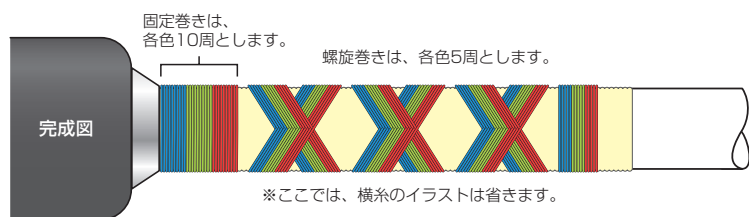
コーティング時の注意

飾り巻きは、糸の重なりが多いため、いきなり塗ると、気泡を生じやすいので、はじめにカラープライマーを塗り、二日間乾燥させて、念のためもう一度塗って、また二日間乾燥させてそれが完全に乾いてから、二液性エポキシコーティング剤を2回、3回と厚塗りするといいでしょう。

カラープライマーがない場合は、うすめ液で薄めた二液性エポキシコーティング剤をしっかりと染み込ませながら塗り、乾燥したらまた塗り重ねることを心がけてください。

シェブロン巻きは文字通り、糸によって山型(矢羽根)の模様を作ります。この技法の特徴は、右なら右側だけ、左なら左側だけと、ひとつ前に巻いた糸に対し、常に一定方向へと螺旋を沿わせていくことです。ここではすべて右側に沿わせていくことにします。

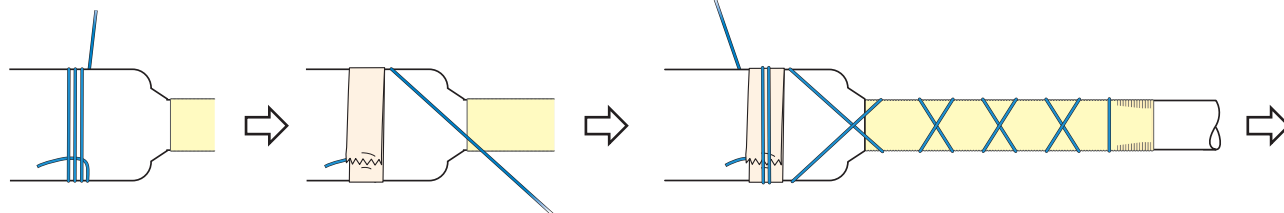
【使う糸】



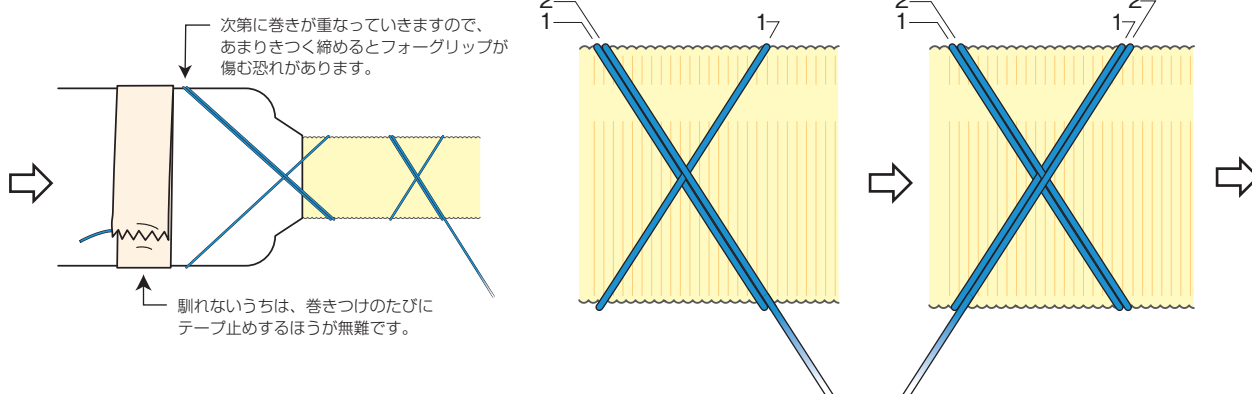
ハンド・ロッドラッパーは、いちどに2色しかセットできませんので、使う糸をそのつど交換します。

下巻きが済んだら、青をフォアグリップに巻きつけ、螺旋の巻き上げを始めます。

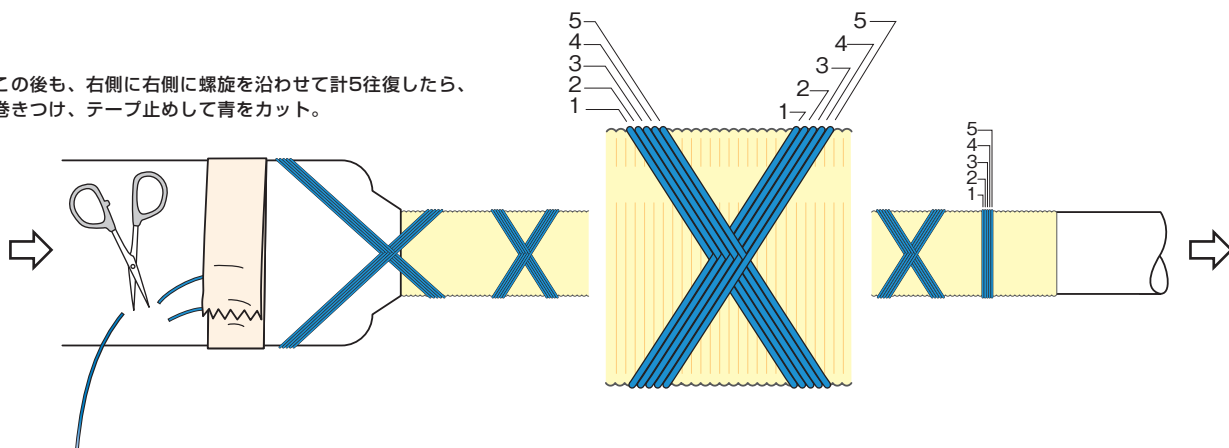
1往復したら、またフォアグリップに巻きつけ…



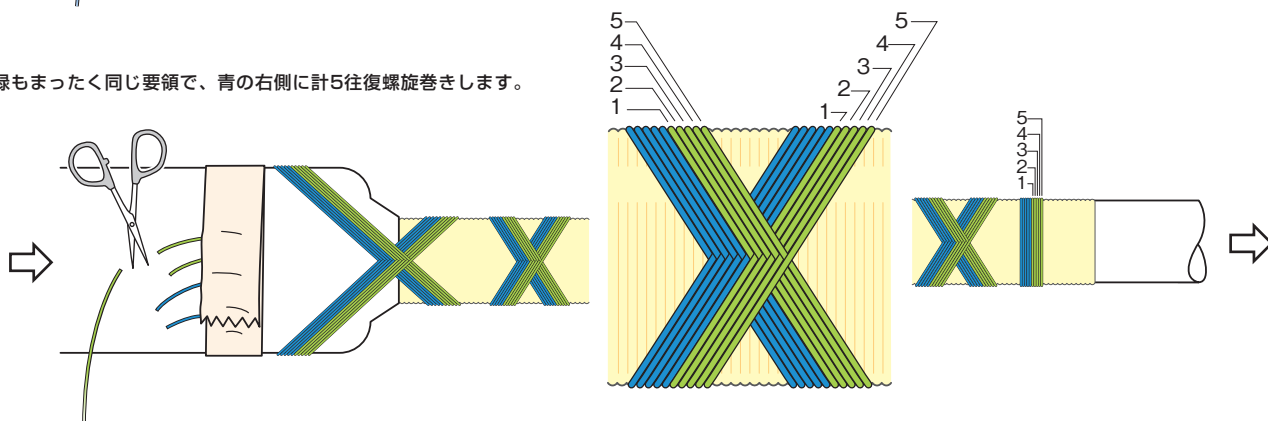
最初に巻いた青のすぐ右側にぴったり沿わせて2往復目。



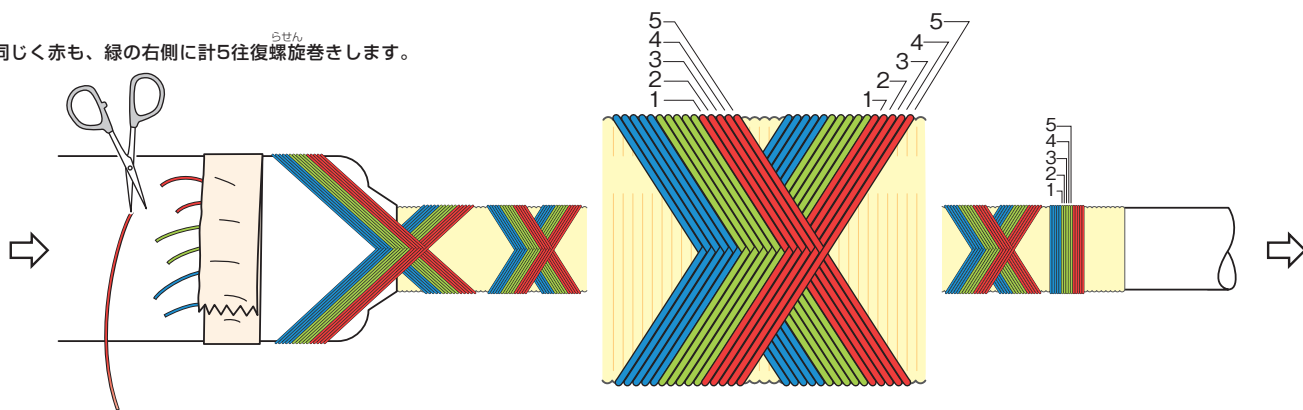
この後も、右側に右側に螺旋を沿わせて計5往復したら、巻きつけ、テープ止めて青をカット。



緑もまったく同じ要領で、青の右側に計5往復螺旋巻きします。



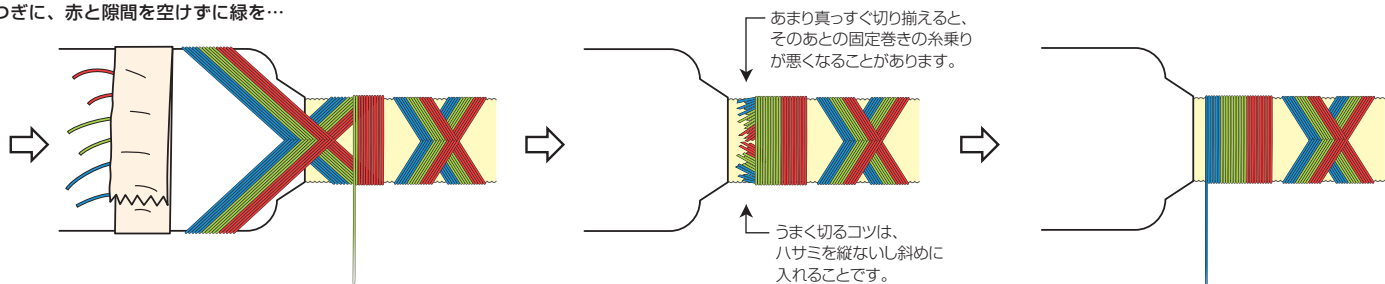
同じく赤も、緑の右側に計5往復螺旋巻きします。



螺旋巻きがすべて終わったら、つぎに固定巻きを行ないます。
各色の巻き幅は、あらかじめ決めてから巻き始めましょう。
ここでは、まず赤を10周巻いて、固定。
つぎに、赤と隙間を空けずに緑を…

…10周させて固定したら、フォーグリップの
テープを剥がし、螺旋巻きの糸端をカットします。

最後に青を10周。螺旋巻きの端糸を覆い、
おわりまで巻いて糸端を固定します。



※このあとのコーティングは、P.12
「コーティング時の注意」も参照ください。

ダイヤモンド巻き(2点ダイヤモンド)

DIAMONDS

この巻き方は、シェブロン巻きとは対象的に、中央にある糸に対し、左右交互に螺旋を沿わせていくことで
ダイヤモンドの模様を形づくりします。ここでは、右→左を繰り返します。

【使う糸】



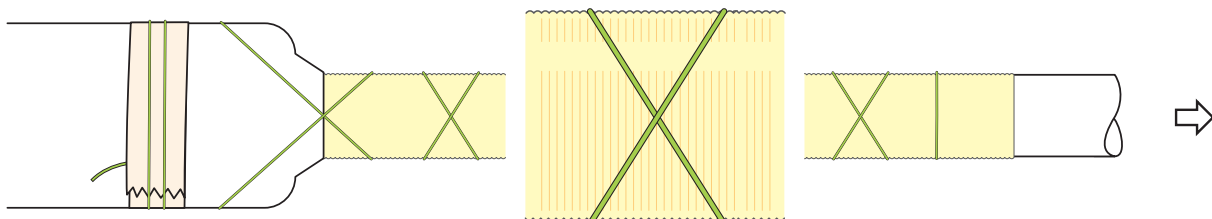
*ここで言う「右」「左」とは…



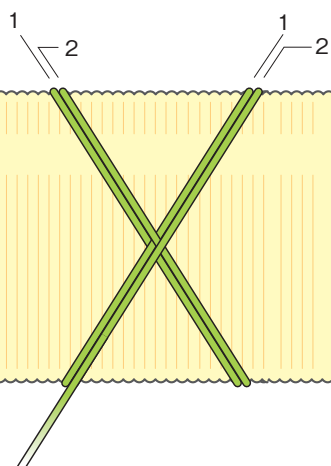
固定巻き 緑：10周
赤：両側6周づつ
青：〃
螺旋巻き 緑：5周 (5往復)
赤：両側3周づつ (6往復)
青：〃 (〃)



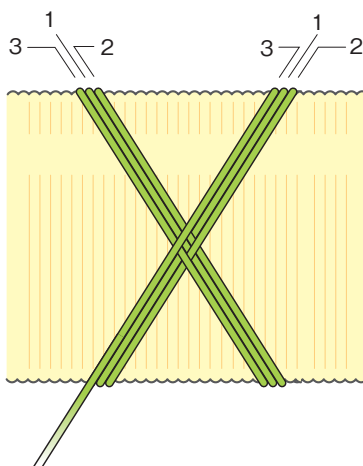
はじめに、緑を5往復させます。まず、すべての螺旋の中心となる緑を1往復させ…



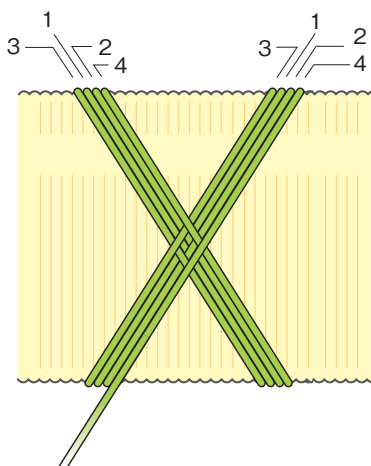
1の右に2往復目



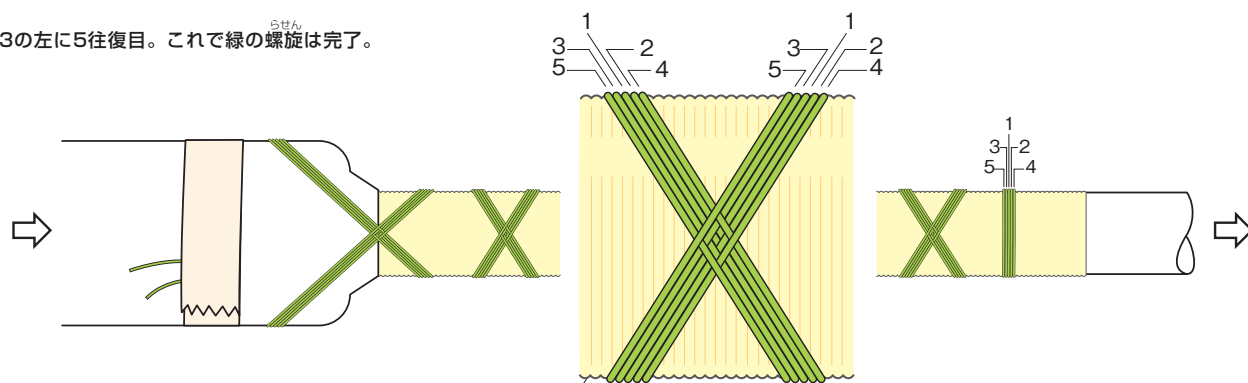
1の左に3往復目



2の右に4往復目



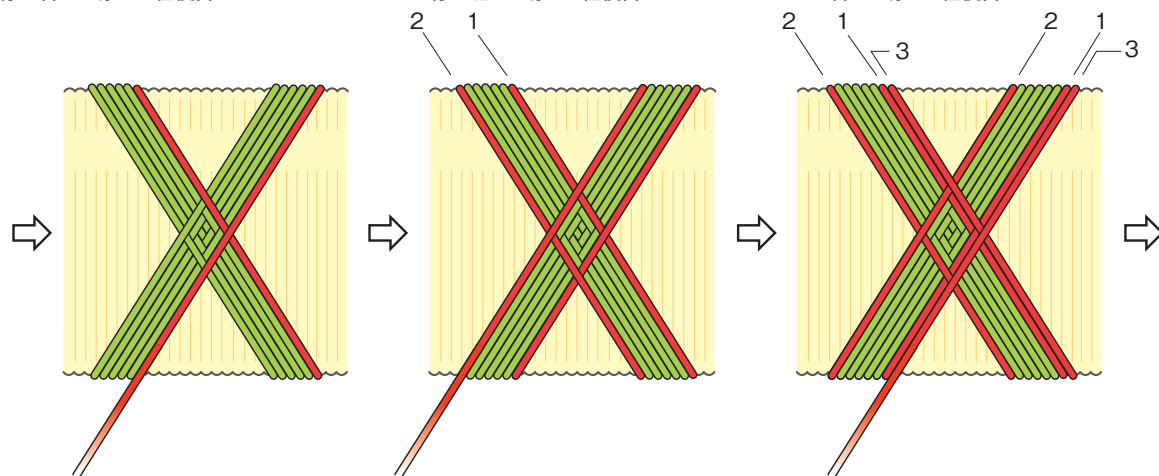
3の左に5往復目。これで緑の螺旋は完了。



緑の右に、赤の1往復目。

緑の左に、赤の2往復目。

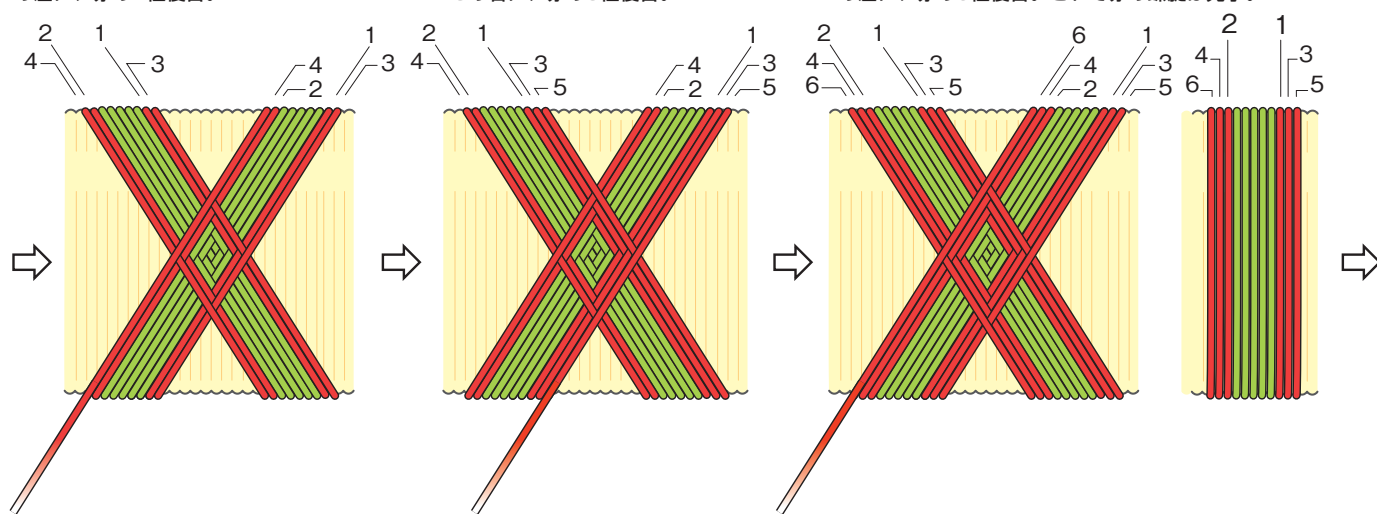
1の右に、赤の3往復目。



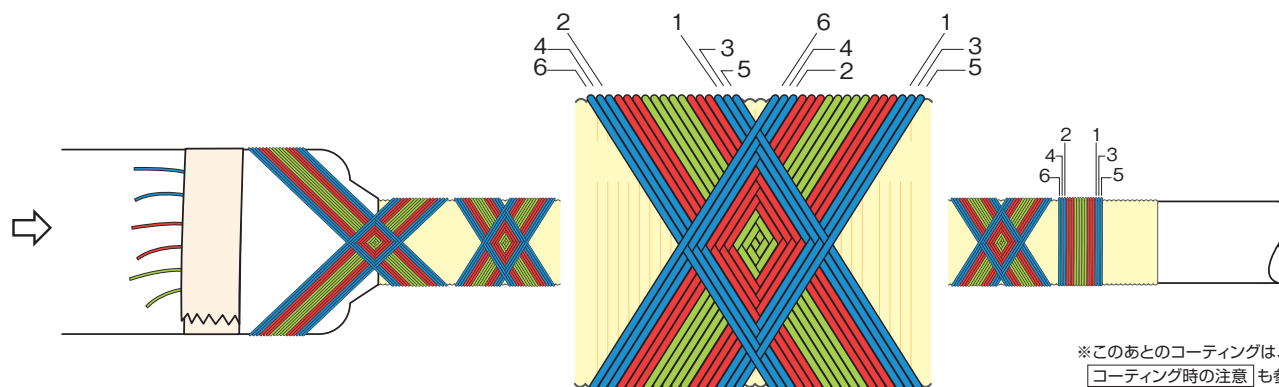
2の左に、赤の4往復目。

3の右に、赤の5往復目。

4の左に、赤の6往復目。これで赤の螺旋は完了。



赤の螺旋と全く同じ要領で、右→左と青の螺旋を6往復させ、おわりに固定巻き→糸端カット→固定巻きをしたら、すべて巻き終わりです。



※このあとのコーティングは、P.12
コーティング時の注意 も参照ください。

コーティング ～FINISHING～

警告： ツールを使用する前に、付属の取扱説明書をよく読んでから使用してください。
火気および薬品類の取り扱いには十分注意してください。

筆の毛を抜けにくくするには、
輪をペンチなどでツブします。



●コーティング剤に細心の注意を

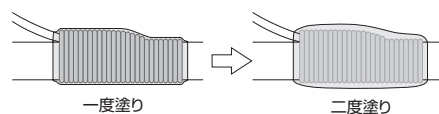
混合比、かき混ぜ時間、硬化時間などが
商品によって異なる場合がありますので、
必ず取扱説明書を読み、指定に従いましょう。



●二度塗りもあり

よりキレイに仕上げるため、あるいは強度や耐久性を高める
ためとして、二度塗りする人もいます。
はじめの薄塗りで液を浸透させ、二度目の本塗りで仕上げと
いう具合にです。

※一度塗り専用のコーティング剤の場合は
一度で仕上げてください。



●コーティング乾燥機が便利

手でロッドを回しながらコーティングする人もいますが、
コーティング剤のほとんどは、乾燥に長時間かかることもあり、
よほどの馴れがない限り、液が片寄ったりタレたままの状態
で固まってしまう。電動式のコーティング乾燥機があれば、
均一の速さでゆっくりと回り続けますから、
ロッドを手で回す労力が省け、ムラなくキレイに仕上がります。

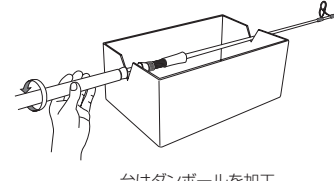
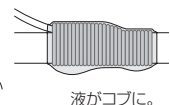
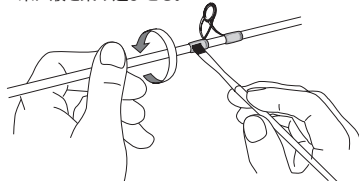
無ければ……

決して液を盛らす、あくまで糸に液を染み込ませる、という感じで薄塗ります。
ただし液が盛れないぶん、耐久性・強度はそれなりです。

軽く筆を置いてゆく感じで
糸に液を染み込ませる。

液を盛ると、
こんなふうになりがち。

乾くまで、ときどき手で回します。



台はダンボールを加工。

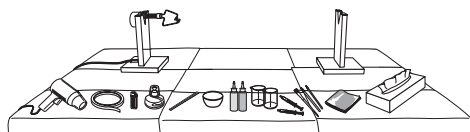
●その他

作業と乾燥は、なるべく高温・低湿で、塗った液にホコリやゴミが付かない場所で行ないましょう。

警告： ただしコーティング剤には有機溶剤が含まれているものもあるため、定期的な換気を忘れず、火気にもご注意ください。

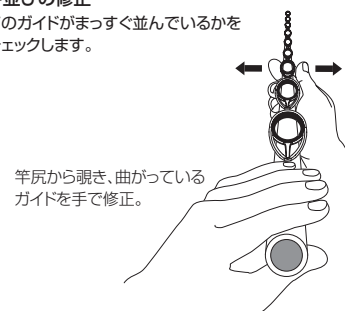
① 作業場を作る

液ダレに備え、机や床に新聞紙を敷き、その上にコーティング乾燥機を設置。
次に、この作業で使用するツールをすべて手の届くところに置きましょう。
コーティング剤は、途中で席を立てている間にも硬化が進むため、
万全の準備で作業に集中できる環境を作りましょう。



② ガイド並びの修正

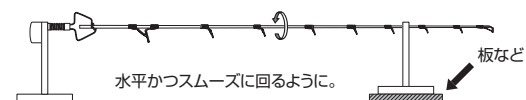
すべてのガイドがまっすぐ並んでいるかを
最終チェックします。



竿尻から覗き、曲がっている
ガイドを手で修正。

③ ロッドのセッティング

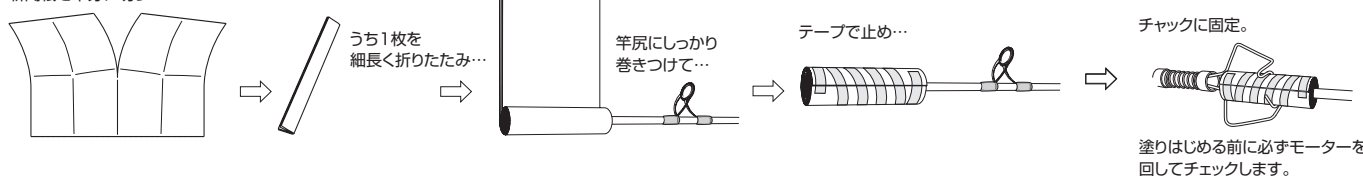
コーティング乾燥機にロッドを水平にセットします。傾いていると液が片寄りますので、
スタンドの下に板などをを入れて調整します。



ロッドを奥まで差し込む。

ロッドの固定が終わったらスイッチを入れてモーターを回してみます。もしチャックを開けてもロッドが動いてしまうようなら……。

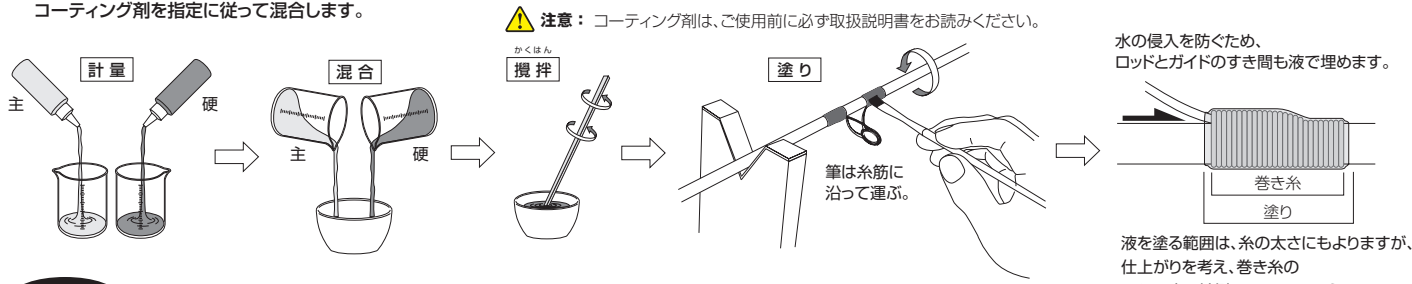
新聞紙を半分に切り……



塗りは始める前に必ずモーターを
回してチェックします。

④ コーティング

コーティング剤を指定に従って混合します。



特に重要！ 正確に計量

適当に計量すると……

- ・すぐ硬化が始まってしまう
- ・いつまでたっても乾かない
- ・硬化後の見た目が悪くなる

液は多めに

- ・塗っている最中、足りなくなるよりは余ったほうがマシ。
- ・少量だと、指定の混合比率に誤差が出ることもあり。

かき混ぜもしっかり

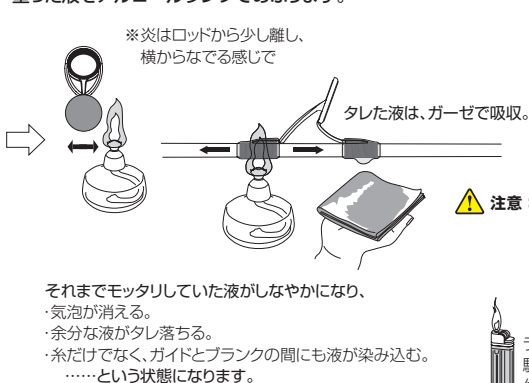
- ・指定の時間を守り、しっかり混ぜましょう。
- ・かき混ぜ不足は、計量の失敗と同じような結果を招きます。
- ・このとき気泡が生じてもあとで消えます。

はじめは薄く均一に

- ・コーティング乾燥機をONにしてロッドを回しながら糸に液を塗ってゆきます。
- ・二度塗りを前提とした場合、初回塗りのコツは、
- ・均一に薄く塗る。
- ・塗る、というより糸に筆を軽く置いてゆく感じ。
- ・すべての糸に液を染み込ませる感じ。
- ・液はあまり盛らない

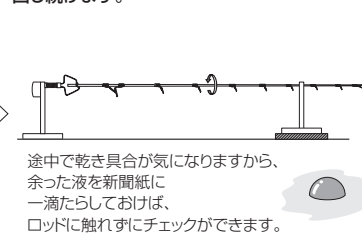
……の4点です。

塗った液をアルコールランプであぶりします。



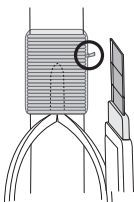
なお、ドライヤー(HOT)でも、これに近い効果が得られますが、注意点は、風で液が波状に広がりやすいこと。波状になった液は、ロッドを回し続けていけばやがて落ち着きますが、決めた塗装範囲(塗りのいちばん外側)を液がオーバーしがちなので気をつけてください。

液が完全に乾くまでコーティング乾燥機で回し続けます。



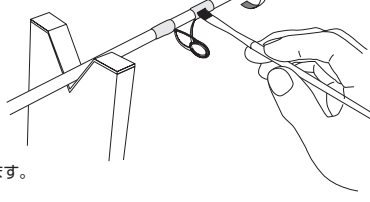
⑤ 塗りが乾いたら

切りそこねた糸端が突起になっていたら、カッターで切ります。

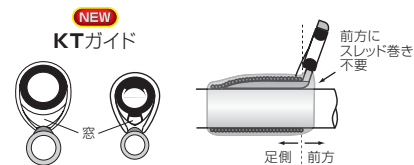


⑥ 二度塗りするなら

ツールの再チェックを済ませ、再びコーティング剤を作り、同じ手順で塗り始めます。初回が薄塗りだったなら二度目は本塗りのつもりで、初回塗り同様、完全に乾くまでコーティング乾燥機で回し続けます。



通常のシングルフットガイドは、こんな感じで裏側に液を盛ると、抜け防止や強度アップになりますが、新型KTは足側に塗ったコーティング液が「窓」を通してフレーム前方にも行き渡ることによってそれ以上の効果が得られるため、スレッドを前方に巻く必要がありません。

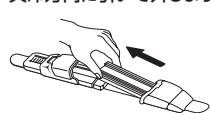


プレートシートの取り付け

ツールも方法も、ガイドの取り付けと全く同じです。

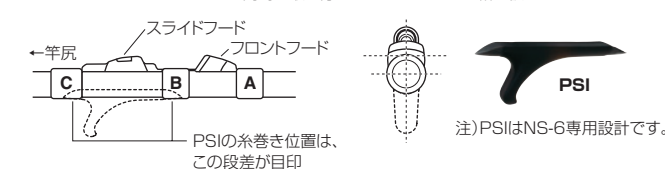
① NSシートの場合は、

図のようにプラスチックカバーを持ち上げてロックを外し、矢印方向に引いて外します。



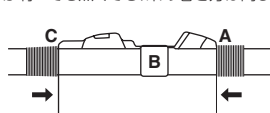
② 取り付け位置を決め、糸を巻く3点をマスキングテープで

仮止めします。この時、プレートシートとガイドをまっすぐにします。※もしシートがNS-6で、PSIも同時に取り付けれるなら、このとき一緒に仮止めします。



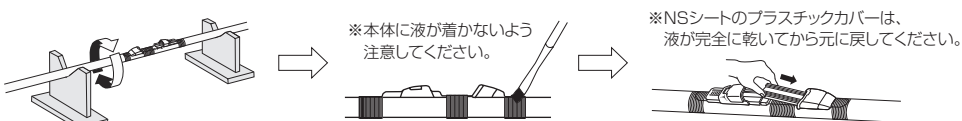
③ 仮止めを一つ所づつ外し、順に糸を巻いてゆきます。

この時、A→C→BまたはC→A→Bの順に巻いてゆくと、プレートシートをしっかりと固定できます。糸の巻き方は、P.9〜『ガイドの巻き方』をご覧ください。※PSIが有っても無くても、糸の巻き方は同じです。



④ コーティングの方法も、ガイドの場合とまったく同じですので、P.16〜『コーティング』をご覧ください。

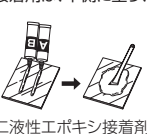
※PSIが有っても無くても、コーティングの仕方は同じです。



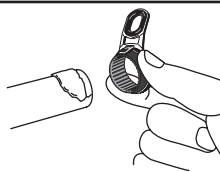
口金ガイドの取り付け

振出竿用ガイドは、元側から取り付けでゆきます。

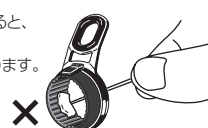
接着剤は、竿側に塗り、



ガイドを、回しながらゆっくり押し込み、向きを合わせます。はみ出した接着剤はすぐに拭き取り、さらにアルコールで落とします。



※ガイド側に接着剤を塗ると、竿の内側に接着剤が入ってしまう恐れがあります。



ロッドコンポーネントのメンテナンス

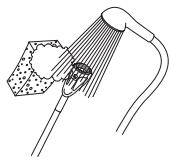
釣行後のお手入れについて

釣りから帰ったら…

ロッドと一緒に風呂に入りましょう!

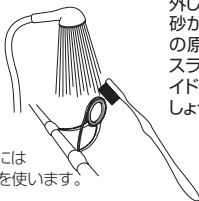
海水・淡水を問わず、釣行後は必ずロッドを洗浄し、お手入れをお願いします。ロッドコンポーネントを腐食や変質から守るとともに、破損箇所の発見や不具合のチェックにもなります。特に海で使用したロッドコンポーネントは、塩分も取り除く必要があるため、人体に熱くない程度の「お湯シャワー」で洗うことをお勧めします。

スポンジや柔らかい布を使い、中性洗剤や固形石鹸などで洗います。

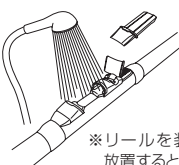


リングには目に見えない砂などが付着していることがあり、これによってラインにキズがつく恐れがありますので、淡水用ロッドであってもリングもよく流しましょう。

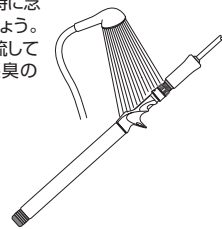
※頑固なヨコレには歯ブラシなどを使います。



パイプシートもプレートシートも、リールは必ず外してから洗いましょう。砂が入り込むと不具合の原因となりますので、スライドフード部とスライド部は特によく流しましょう。



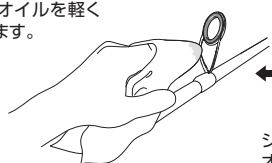
スライド部分や回転部分、そして金属部分は特に念を入れて洗いましょう。コマセもよく洗い流してください。腐食、悪臭の原因となります。



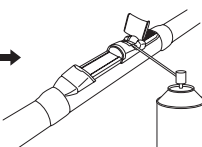
洗い終わったら、よく水を切り、乾いた布で水分をしっかりと拭き取ってから、風通しのよい日陰で乾燥させます。



乾燥後、ガイドフレームやプレートシート(特に動作部分)などの金属には、シリコン系のオイルを軽く塗っておきます。



シリコン系オイル



特にトップガイドのロウ付け部分は腐食しやすく、青サビも出やすいため、念を入れて塗布しましょう。



※FUJIチタニウムトップは、フレームはチタン製ですが、パイプはステンレス製ですので、FUJIステンレストップ同様、釣行後のお手入れが必要です。

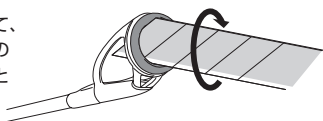
リング割れ 処置と防止

チェックのしかた

ラインが、妙な切れ方をする…どうも頻繁に切れる…。このような場合、なんらかの衝撃でガイドリングにキズが入り、それが原因となっていることがありますので、次の方法でチェックしてみてください。

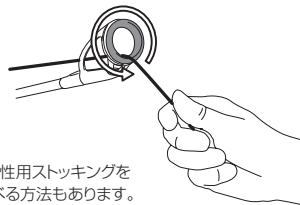
カッターの刃をリングの内側に当て、グルッと一周させます。もしリングの欠け・割れがあれば、刃がカチッと引っかかります。

※この程度カッターの刃を当ててもリングは割れません。



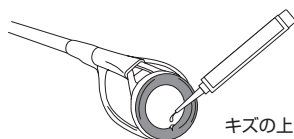
あるいは、ピンと張ったラインでリングの内側をグルッとさせてみます。リングの欠け・割れがあれば、ラインが引っかかります。

※細長くカットした女性用ストッキングをリングに通して調べる方法もあります。



現場での応急処置

もし釣りの最中にリング割れを発見した場合は、この処置を参考にしてください。ただしこれはあくまで応急処置であることをご理解いただくとともに、これ以後は、次の釣行までに必ずガイドを交換してください。ガイドの交換につきましては、お求めの竿メーカー様、小売店様にご相談ください。



リングに汚れ、濡れないことを確認したうえで、割れの箇所瞬間接着剤を差し、盛っては乾かすことを繰り返してキズを埋めていきます。

キズの上に盛っては乾かし、盛っては乾かし…を繰り返します。

注意:

FUJIのガイドリングはすべてファインセラミック製です。ファインセラミックは極めて耐久性に優れ、ガイドリングとして最適な素材ですが、落下やぶつけ等により衝撃を与えると、割れることがあります。運搬も含めて取扱いにご注意ください。

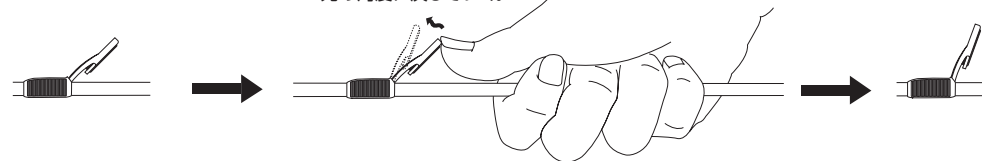
※当社では、リングのみの交換・販売はしておりませんが、リング割れの場合、フレーム破損の時と同様にガイドそのものを交換する必要があります。したがって、リング割れ・リング抜け・フレーム破損のトラブルが発生しましたら、お求めの竿メーカー様、小売店様までお問合せください。

フレーム曲がりの応急修正

不意にフレームが曲がってしまった場合、指でゆっくりと元の形状に戻します。

倒れてしまった直立フレームを…

ゆっくりと力を入れて元の角度に戻していく。



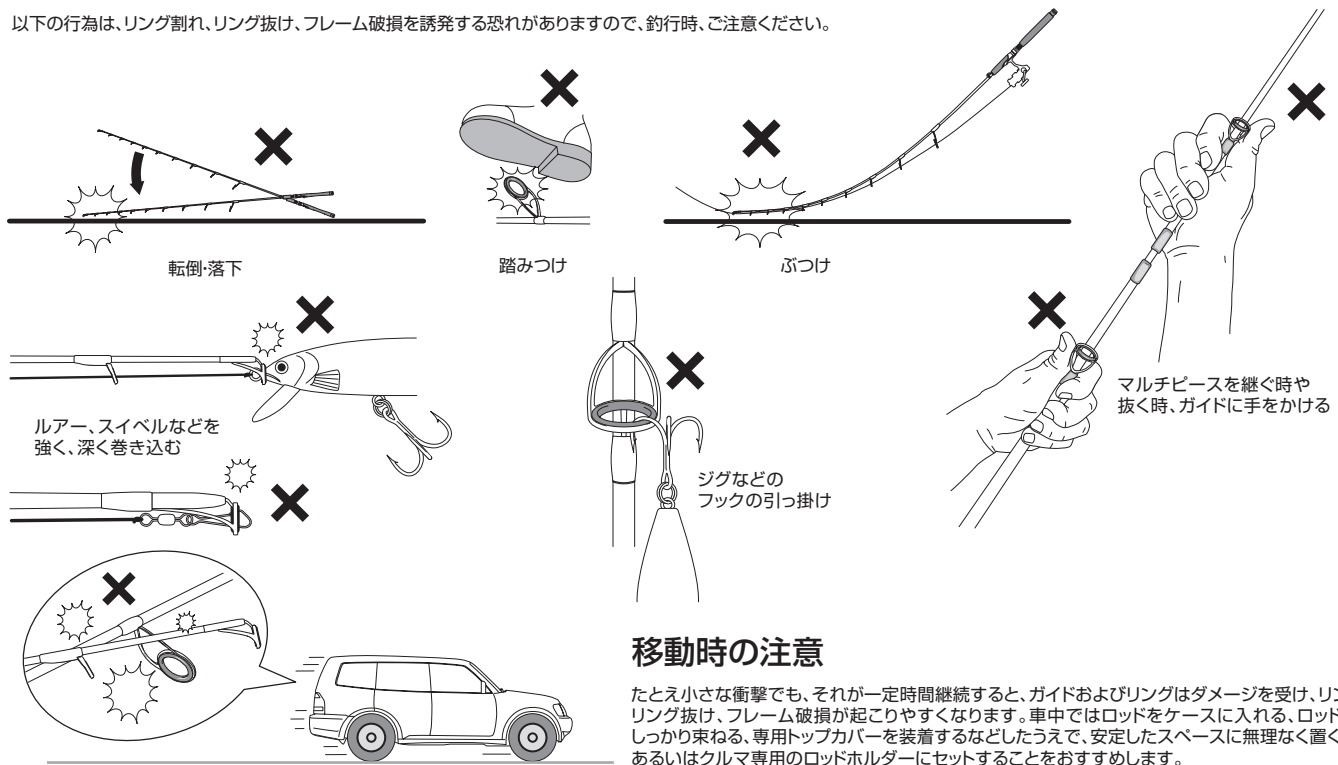
※あくまでゆっくり行ってください。急激に曲げたり、何度も曲げると、フレームが折れます。

※フレームががねじれたり、極端な変形の場合は、ガイド交換の必要がありますので、お求めの小売店様、竿メーカー様にお問い合わせください。

- ハンド・ロッドラッパーRRMを除き、本文に掲載のFUJI製品は直接販売しておりません。お近くの釣具店様でお求めください。
- FUJI ロッドコンポーネントの詳細につきましては、総合カタログもしくは弊社サイトwww.fujitackle.comをご覧ください。

リング割れ、フレーム変形を防ぐ

以下の行為は、リング割れ、リング抜け、フレーム破損を誘発する恐れがありますので、釣行時、ご注意ください。



※ドア、パワーウィンドウの開閉にも充分ご注意ください。

移動時の注意

たとえ小さな衝撃でも、それが一定時間継続すると、ガイドおよびリングはダメージを受け、リング割れ、リング抜け、フレーム破損が起こりやすくなります。車中ではロッドをケースに入れる、ロッドベルトでしっかり束ねる、専用トップカバーを装着するなどしたうえで、安定したスペースに無理なく置く、あるいはクルマ専用のロッドホルダーにセットすることをおすすめします。

穂先が折れたら…



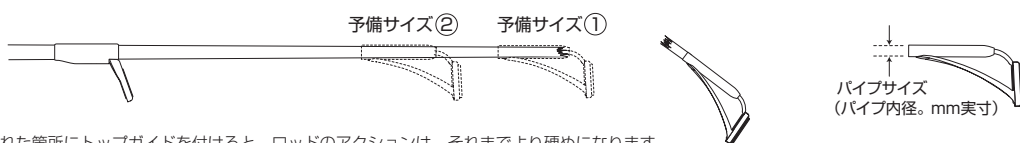
このノウハウは、あくまで応急処置であり、釣行直前、あるいは釣行中に起こったトラブルへの対処法とご理解ください。通常の場合は、穂先が折れた時点で、修理について、お求めの竿メーカー様あるいは小売店様までお尋ねください。

折れた箇所に合う予備のトップガイドとFUJIホットグルーがあれば、ロッドは短くなってしまうですが、応急処置は可能です。こういう事態に備え、特に遠征には、いまロッドに付いているものより少し太めのパイプサイズのトップガイドを携帯していれば、急場をしのげるかもしれません。

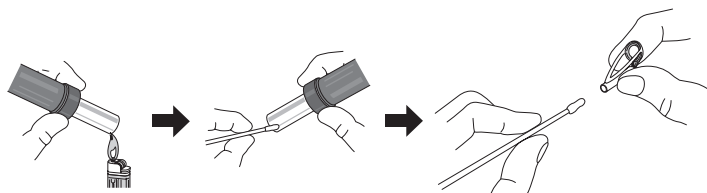


FUJI ホットグルー
F-GLUE-J

どこで折れるか事前にはわかりませんが、携帯する予備サイズは、例えば・・・

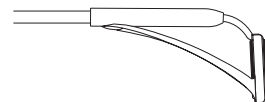


※折れた箇所にトップガイドを付けたら、ロッドのアクションは、それまでより硬くなります。
※穂先が折れた場合は本来、ガイドバランスが以前と変わるため、他のガイド位置も修正が必要です。



FUJIホットグルーの詳細・使用法は
P.9をご覧ください。

接着強度はあくまで応急レベルですが、FUJIホットグルーには、パイプサイズが少しくらい太くても穂先とのスキ間を埋められる、という利点があります。



帰ったら・・・

- ・ちょうど合うサイズのトップガイドを二液性エポキシ接着剤で付けましょう。
- ・ロッドが短くなり、ガイドバランスが以前と変わったため、トップガイド以外のガイドも位置修正しましょう。



・このカタログに掲載されている製品は、釣り以外の目的には使用しないでください。
・セラミックは極めて耐久性にすぐれ、ガイドリングとして最適な素材ですが、使用条件によっては摩耗することもあります。
・セラミックリングは、落したり、ぶついたり、衝撃を与えると割れることがあります。また、ガイドフレームも、衝撃や荷重によって変形することがあります。
運搬も含めて取扱いにご注意ください。
・ガイドのフレームを無理に曲げて角度を変えると、フレームが折れたり、リングが抜けたりすることがあります。
・ガイドの足をグライントした場合、金属粉が残ったままガイドを取り付けると、腐食の原因となります。
・樹脂製品の接着乾燥は70℃、30分が目安です。長時間、高温下に置くと変形する場合がありますので、保管場所にもご注意ください。
・品質には万全を期しておりますが、お気づきの点がありましたら当社までお問い合わせください。
・子供・幼児の手の届かない所に保管してください。
・改造品については責任を負いかねます。
・水分、塩分、ドロ等、汚れたまま放置すると、腐食や変質の原因となります。使用後は汚れを拭きとり、風通しの良い日陰に保管してください。
・ガイドや他のパーツについても、ご使用前の点検は必ず行ってください。
・このカタログに掲載されている価格はすべてメーカー希望小売価格です。消費税は含まれておりません。
・写真の色は、印刷等の関係上、実際の色と異なる場合があります。
・仕様、価格は改良等のため、予告なく変更することがあります。



楽しんだ、釣り場へ感謝の、あと始末
世界釣り週間を成功させましょう



このマークは、(財)日本釣振興会と(社)日本釣用品工業会が日本の「つり」と「つり環境」をよりよく発展させようと設けた釣り振興事業資金拠出に協力している商品についております。当社も、この主旨に賛同し積極的に協力しています。